

「静岡市子ども・若者育成プラン」達成状況一覧表

施策目標	ページ数	事業数
施策の柱1 「自己有用感を持った子ども・若者の育成」	1～19	76
施策の柱2 「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」	20～29	33
施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」	30～38	40
施策の柱4 「非行防止と安全対策の推進」	39～42	16
施策の柱5 「居場所づくりと社会参加の推進」	43～46	16
施策の柱6 「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」	47～54	35
合 計		216

目標に対する評価	令和元年度末目標値達成基準	事業数
A	計画目標に対し、現時点で8割以上達成している。	198
B	計画目標に対し、現時点で5割以上8割未満達成している。	11
C	計画目標に対し、現時点で2割以上5割未満達成している。	3
D	計画目標に対し、現時点で2割未満達成している。	0
評価対象外	(目標値を定めないもの、すでに終了した事業、令和元年度実績なし等)	4
合 計		216

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者							
1	1	①		学校教育課	人権教育研修会	年2回、各小中学校の人権教育担当者を集めて、人権教育の研修会を実施している。		●	●	●					道徳(人権)教育担当者を年間2回実施した。学校教育全体で取り組む道徳教育の推進向上について教職員の理解をさらに深めることができた。	道徳(人権)教育担当者を年間2回実施する。学校教育全体で取り組む道徳教育の推進向上について教職員の理解をさらに深めていく。	道徳・人権教育担当者を年間2回実施した。学校教育全体で取り組む道徳教育・人権教育の推進向上について周知を図り、教職員への理解を深めることができた。	-	A	継続	教育センターの道徳研修会と学校教育課の人権研修会を合わせて行っている。どちらも、学校教育全体で取り組むものなので、今後も連携して進めていきたい。
3	1	①		建築総務課	ユニバーサルデザイン出前講座	小中学生を対象に、ユニバーサルデザインを楽しみながら学ぶ機会をつくり、その体験を通して、ユニバーサルデザインへの興味を高め、様々な人を思いやる気持ちを育てる。		●	●	●					講座回数 8回 (講座実施クラス数 11クラス)	講座回数 6回	講座回数 25回 (講座実施クラス数 39クラス 2団体)	225	A	継続	ユニバーサルデザイン出前講座を継続実施してきたことで、受講希望校数が増加してきた。令和元年度から、よりユニバーサルデザイン教育を普及できるよう、効果的かつ効果的な講座内容を検討しており、今後も検討を続ける。
4	1	①		危機管理課	市政出前講座・静岡市の防災体制とわが家の地震対策	南海トラフ巨大地震の被害想定。また、居住する地域で発生が予想される自然災害の被害や対策などを具体的に講話することで「自助・共助」の重要性を理解させるため、学校等において地震対策・防災教育に関する教育プログラムを実施する際、関係機関と連携して講師等を派遣する。		●	●	●	●	●	●		危機管理課 41回 3,609人 各区地域総務課 192回 12,622人	・市政出前講座の実施 ・防災教育のための教材提供及び授業の支援	危機管理課 34回 2,513人 各区地域総務課 242回 171,89人	(経常) 762の一部	A	継続	自助・共助の重要性について講話することで、命の大切さや思いやりを学ぶことに役立っていることから、今後も学校等への講師派遣を継続していく。
5	1	①		健康づくり推進課 葵区健康支援課 駿河区健康支援課 清水区健康支援課	学童・思春期対象の健康教育事業	命の大切さを学ぶため、中学生が総合的な学習の時間において、赤ちゃんについての講義を聞き、実際に赤ちゃんや母親とふれあう事業を実施する。(保健福祉センターで実施)								葵区 16回 駿河区 12回 清水区 4回 合計 32回 参加者延人数 1,130人 (所外健康教育(思春期) 32回1,130人)	葵区 15回 駿河区 9回 清水区 3回 合計 27回	葵区 15回 駿河区 9回 清水区 7回 合計 31回 参加者延人数 1,073人 (所外健康教育(思春期) 31回1,073人)	-	A	継続	(評価) 目標どおり事業を実施した。 (今後に向けた取組) 今後は、学校関係と連携し、ニーズに合わせた効果的な事業の実施を検討していく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組				
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	其 他									保 護 者			
6	1	①		障害福祉企画課	心の輪を広げる障害者理解促進事業	障害の有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあふ共生社会を目指し、障害のある人に対する国民の理解を図るため、市民を対象に「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間」のポスターを公募する。		●	●	●	●	●			●		●								静岡県代表作品が内閣府優秀賞を受賞するなど、内容は充実したものであったが、応募作品数は目標を下回った。障がいや障がいのある人に対する理解と認識を深めるため、引き続き事業を継続するとともに応募者数増加につながる周知方法について検討していく。
7	1	①		障害福祉企画課	心のバリアフリーイベント	市民に対し障害者のある人及び障害の理解と認識を深めるとともに、障害のある人があらゆる分野の活動に積極的に参加する等障害者福祉の増進を図ることを目的として、障害者週間にちなみ障害のある人となない人が交流しふれあうためのイベントを実施する。		●	●	●	●	●		(1)ジズカンにて映画上映、マルシェ出店 日時:H30.5.12,13(土、日) 場所:七間町周辺 (2)交流イベントの実施(高齢者福祉課と合同開催) 日時:H31.3.16(土)10時~15時 場所:葵スクエア、青葉緑地B1 (3)啓発品の配布 日時:H30.12.3,4,5(月、火、水) 場所:呉服町通り、アピタ静岡店、イオン清水店 (4)心の輪を広げる体験作文、障害者週間のポスター入賞者表彰式 日時:H30.12.3(月) 場所:静岡庁舎ロビー (3)パネル展示 日時:H30.12.3(月)~12.7(金) 場所:静岡庁舎、駿河区役所、清水庁舎	(1)交流イベントの実施 日時:R2.3.28(土)10時~15時 場所:葵スクエア、青葉緑地 (2)啓発品の配布 日時:R1.12.3(火)~R1.12.9(月)いずれか1日 場所:呉服町通り、セントラルスクエア静岡、イオン清水(仮) (3)障害者週間ポスター・作文等展示 日時:12月 場所:葵区役所・駿河区役所・清水区役所	(1)交流イベントの実施 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月実施予定であった心のバリアフリーイベントは中止 (2)啓発品の配布 日時:R1.12.3(火)イオン清水、R1.12.4(水)セントラルスクエアR1.12.5(木)呉服町通りで実施 (3)障害者週間ポスター・作文等展示 日時:R1.12.3(火)~R1.12.10(月) 場所:葵区役所、駿河区役所、清水産業・情報プラザで展示	117	-	継続	イベント来場者へのアンケートでは、障がいについての理解が深まった人が実施できなかった今年度を除き、過去3年間はいずれも98%以上であるため、開催の効果が認められる。引き続き、障がいや障がいのある人についての理解を深めるためのイベント等を計画していく。					
8	1	①		男女共同参画課	学校出前講座「豊かなセクシュアリティ」	男女お互いの「性と生」を尊重しあい、豊かな人間関係を築くことを目的に、中学生を対象に、性教育に関する講座を行う。				●				8校実施	7校実施	7校実施	60	A	継続	新たな受講生徒に対して、セクシュアリティに関する出前講座を実施する。					

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低: 小学校低学年
中: 中学生
大: 大学・短大・専門学校生
小高: 小学校高学年
高: 高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他								
9	1	①		日本平動物園	サマースクール	体験活動等を通じ、動物について学ぶ。 (1年、2・3年、4～6年生の3クラス各2回) 実施期間:8月上旬頃		●	●						1年生 30名 2・3年生 74名 4～6年生 75名	1年生 30名 2・3年生 30名 4～6年生 40名	1年生 30名 2・3年生 30名 4～6年生 40名	4	A	継続	目標値を達成できた。R2年度は新型コロナウイルス感染防止対策により開催中止としたが、今後の開催にあたっては感染要望対策の徹底や各学年におけるスクールの募集人数と実施回数の検討を行う。
10	1	①		日本平動物園	写生大会	園内で動物等を描いた絵を提出(参加)してもらい、審査・表彰等を行う。 実施時期:春…4月頃、秋…9月下旬～10月下旬頃		●	●	●	●	●			参加者217名	参加者150名	参加者72名	64	C	継続	期間中の天候不良もあり、参加者数が目標を下回った。R2年度は開催中止であるが、今後は、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しながら、参加者増に向けた広報等情報発信を強化していく。
11	1 3	① ②		日本平動物園	学校対応事業	①ふれあい教室の実施(小学校低学年・特別支援学校等対象) ②飼育体験実習の受入れ(主に中学・高校・大学生の職業体験等) ③ツアーガイドの実施(小学・中学・高校生を対象にした園内ツアーガイド) ④出張動物園ガイド/講演(飼育担当者が学校を訪問し講演) ⑤校外学習の受入れ(学校の授業の一環としての質問への対応等)		●	●	●	●	●			①111回実施 ②34人受入れ ③30回実施 ④21回実施 ⑤13回受入れ	①100回実施 ②30人受入れ ③30回実施 ④20回実施 ⑤5回受入れ	①147回実施 ②32人受入れ ③35回実施 ④25回実施 ⑤6回受入れ	動物園管理運営経費(経常) 288,280千円の一部	A	継続	R2年度は一部を一定期間中止している事業もあるが、毎年実施している事業であるため、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しながら、時代のニーズや学校の要望等を踏まえ、事業内容の効率化、適正化を進める。
12	1 6	① ④		救急課	応急手当普及啓発活動の促進	学校教育での救命講習受講推進を図るため、毎年度、市内全小中学校(小学5年生、中学2年生)に呼び掛けて実施します。市域において、将来的に大多数の市民が受講済の環境を目指す。救命講習を通じ、命の大切さを学ぶ環境を醸成する。			●	●				市内公立小学校 5,870人 市内公立中学校 5,335人 合計 11,205人 市内全小中学校で授業の一環として救命講習を実施した。	市内全小中学校の小学5年生、中学2年生に対し、学校教育における救命講習を実施 市内私立小中学校に救命講習受講推進	市内小中学校で授業の一環として救命講習を実施 市内公立小学校 5,473人 市内公立中学校 4,713人 合計 10,186人 市内私立小中学校 168人	8,465千円の一部	A	継続	・市内私立中学校にも協力を要請し、一部の学校で講習が実現したので、引き続き実施を推進していく。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた講習方法を検討する必要がある。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- | | | | |
|----------|---|---|-----------------------------------|
| 基本
施策 | ①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する | (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生 | 小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満) |
|----------|---|---|-----------------------------------|

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者							
13	1	①②		男女共同参画課	学校出前講座「自分らしく生きよう」	性別による職業観などを題材に、ジェンダーバイアス(社会的・文化的な性に関する偏見・差別)を取り除いて、お互いの違いを認め合い、自分の才能を生かす力をつけることを目的とした講座を行う。									3校実施	3校実施	3校実施	85	A	継続	新たな受講児童に対して、男女共同参画に関する出前講座を実施する。
14	1	①②		消防総務課	中学生職場体験受入れ事業	消防隊・救助隊等の活動や訓練を実際に体験させるとともに、勤務体制・火災予防業務等、消防の仕事について紹介・説明することにより、「消防業務」についての社会学習機会を提供する。									実施校数 42校 受入生徒数 185人 (内訳) 市内校 29校・141人 島田・吉田・牧之原校 13校・44人	平成30年度並実施予定。2日間にわたる社会学習機会を提供することにより「消防業務」を理解してもらう。また、体験者の火災予防に対する意識を啓発する。	実施校数 45校 受入生徒数 158人 (内訳) 市内校 32校・110人 島田・吉田・牧之原校 13校・48人	-	A	継続	概ね例年並みの実績である。今後も事業は継続するものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底が必要となる。
15	1	①②		男女共同参画課	中学生用男女共同参画副読本「人と人のよりよい関係をつくるために」と、「市内相談機関一覧」等を配付	男女の人権を尊重し、自分自身を大切にすることと同時に、他の人も大切に、人と人のよりよい関係をつくっていくための中学生用副読本を作成する。									49校配付 6,180冊配付 (市立43校5,560冊+私立6校620冊)	市内中学校に配付	53校配付 6,826冊配付 (市立43校5,745冊+国・県・私立10校1,081冊)	294	A	継続	チラシに掲載する相談機関やLGBTQの内容を更新し、副読本を新たな生徒に配付する。また、学校生活等における困難解消に向けて、副読本の活用を促す。
16	1	①④		環境創造課	自然と環境学習の情報サイト「しずおかみんなのしぜんたんけんてちょう」	静岡市の生き物のいる場所、自然について、環境教育について、行政や市民団体等の情報を発信するウェブサイト。情報を発信、共有することにより環境に対する意識の高い人、自ら行動する人を育成し、協働による環境保全施策を実施していく。									年間PV(ページビュー)数 33,889件	年間PV(ページビュー)数 34,000件	年間PV(ページビュー)数 37,400件	541	A	継続	閲覧数を増加させるため、引き続き庁内関係課や市民団体等と連携し環境関連イベントに係る情報を収集して発信していく。今後ウェブサイトの周知をしながらコンテンツの充実や閲覧しやすいレイアウトを研究し閲覧数向上を図る。
再	5	①②②	169	青少年育成課	成人の日行事	新成人を対象に記念式典を開催し、成人としての自覚を促す機会を提供する。									実施 出席者:3,253人 参加率:48.51%	実施 出席者:3,200人 参加率:48.0%	実施 出席者:3,356人 参加率:51.4%	4,642	A	継続	さらなる参加率の増に向け、参加者のニーズに合った魅力的なイベントの企画と効果的な周知・参加呼びかけに引き続き努める。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
策
策
- ①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
 - ②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
 - ③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
 - ④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
中: 中学生
大: 大学・短大・専門学校生
- 小高: 小学校高学年
高: 高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ の 他	保 護 者								総 合 計 画
19	1	②		ごみ減量推進課	ごみ減量啓発講座	沼上資源循環学習プラザでのごみ減量・リサイクルに関する講座や沼上清掃工場の見学を通し、次世代を担う子供達に、総合的な環境学習を実施する。									有	83校(5,468名)に講座を実施	市内小学校に通う4年生児童の社会科授業における施設見学として受入を行う。	81校(5,271名)に講座を実施	静岡市資源循環啓発施設指定管理業務(55,298千円)の一部	A	継続	実施後の児童アンケートでは理解度95.5%を得ており、小学校における環境学習の推進に寄与できている。今後、引率教員等のアンケート結果からニーズに沿った内容の見直しや、社会環境の変化を反映したコンテンツの提供に努める。
20	1	②		スポーツ交流課	全国少年少女スポーツチャンバラ選手権大会in由比	スポーツチャンバラ少年少女が目指す全国大会を開催し、誰もが自由にそして安全に楽しめる生涯スポーツとしてスポーツチャンバラの普及、啓発を図る。なお、礼儀を学び青少年の健全育成と健康であかるいまちづくりに寄与する。										第44回大会実施 H31.3.23(土)～24(日) 参加者540人 (選手277人、保護者及び役員263人)	第45回大会 R2.3.21(土)～22(日) 参加者予定550人 (選手300人、保護者及び役員250人)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 (R2.3.2中止発表)	-	-	継続	由比地区がスポーツチャンバラの拠点となり、自立した大会が実施されるよう、今後の大会の在り方を実行委員会と協議し、万全の運営体制を整えるよう働きかける必要がある。
21	1	②		スポーツ交流課	エスパルスドリーム教室	本市のシンボルである清水エスパルスや大学と協働した静岡版の魅力ある授業づくりを推進し、子どもたちの学習への興味や関心を高めるとともに、心身の健全育成を図る。									有	小学校7校 計14クラス 計321人	実施予定校数 小学校10校程度	小学校10校 計26クラス 計764人	490	A	継続	民間企業からの協力を得て、キャリア教育メニューの充実を図っていく。また、事業実施経費の削減を図るため、民間企業から協賛金を得ることができるようエスパルス、大学側と協議していく。
22	1	②		スポーツ交流課	エスパルスハロープロジェクト事業	清水エスパルスと連携し、夢に向かって生きる子どもたちの成長をサポートし、子育てで繋がる地域コミュニティの推進を図るために、乳児に対しエスパルスオリジナルベビースタイを配布する。 3～5歳児(年少・年中)の子どもとその保護者を対象に運動神経系の発達に必要な運動や体力づくりの方法等をエスパルススクールコーチが指導を行う。									有	エスパルスオリジナルベビースタイ配布 5,200枚 親子ふれあい運動教室 5回実施 未就学児及びその保護者 59組	エスパルスオリジナルベビースタイ配布 5,200枚 親子ふれあい運動教室 実施予定 5回程度 未就学児及びその保護者	エスパルスオリジナルベビースタイ配布 5,200枚 親子ふれあい運動教室 6回実施 未就学児及びその保護者 63組参加	-	A	継続	毎年継続してスタイが配布できるように民間企業からの協賛金の確保が課題となる。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低: 小学校低学年
中: 中学生
大: 大学・短大・専門学校生
小高: 小学校高学年
高: 高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組			
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者											
23	1	②		スポーツ交流課	Jリーグアカデミーエスパルス巡回スポーツ教室の開催	子どもを地域ぐるみで育て、健全な心身の発育を促すため、清水エスパルスと協働し、市内保育園や幼稚園にサッカーコーチが訪問し、サッカーやボール遊びによる運動教室を実施する。									●	●	有	実施箇所 126園 参加園児 3,678人	実施箇所 130園 参加園児 4,000人	実施箇所 128園 参加園児 3,577人	(清水エスパルス交流事業補助金4,500千円の一部)	A	継続	実施園数については、エスパルススタッフの人員及び実施スケジュールからほぼ目一杯であるため、微増の130園を目標としてきたが、例年9割以上の実績を上げている。今後も継続して高い水準を維持できるようエスパルスと協議していく。	
24	1	②		スポーツ交流課	清水エスパルスホームゲーム小中学生招待事業	子どもがプロスポーツを身近に体感できる機会を創出し、将来の夢や希望を抱きかけとなるよう青少年の健全育成を図るため、市内全小中学生を対象に招待案内チラシを配布する。									●	●	●	有	市内小学校91校、中学校56校全校児童・生徒へ招待案内チラシを配布した。 【チラシ配布実績】 ・小学校91校34,471人 ・中学校55校18,362人	小中学生招待事業参加者数 900人	小中学生招待事業参加者数 859人	(清水エスパルス交流事業補助金4,500千円の一部)	A	継続	今後、より一層参加者の増加を図るため、PRの時期や周知方法についてエスパルスと協議していく。
再	2	③	103	スポーツ交流課	全国少年少女草サッカー大会	サッカーを通して友情の輪を広げ、技術、体力、精神面における成長の場となるよう予選なしで参加できる少年サッカーの全国大会。 募集チーム数: 男子256チーム、女子32チーム										●	有	開催期間 H30.8.12(日)～16(木) 参加チーム数 男子256チーム 女子32チーム	開催期間 R1.8.9(金)～13(火) 参加チーム数 男子224チーム 女子32チーム	開催期間 R1.8.9(金)～13(火) 参加チーム数 男子224チーム 女子32チーム	9,669	A	継続	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、まずは大会の開催自体が課題となる。また、県外参加者の確保・受入れについても課題となるため、日本スポーツ協会や日本サッカー協会の示す安全基準等に基づき、実行委員会と連携を図り、十分な安全対策を検討する必要がある。	
25	1	②		スポーツ振興課	全国大会出場選手補助金制度	市を代表して全国的な規模及び水準で開催されるスポーツ競技大会に出場するスポーツ選手の所属する団体等に対し、補助金を交付する。									●	●	●	有	164件交付	170件交付	136件交付	5,155	A	継続	新型コロナウイルス感染症の影響により大会が中止となったこともあり、交付件数は計画を下回った。制度認知度を向上させるため、様々な場で周知を行う。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額(千円)	評価	R2継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組				
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他									保護者			
26	1	②		スポーツ振興課	市内高校野球大会の開催	市内高校の競技力向上とチーム間の交流を通して、一層の競技力向上を図るため、市内17校によるトーナメント戦を開催する。									●	●	●	有	市内大会(10・11月)実施	市内大会(10・11月)実施	市内大会(10・11月)実施	1,066	A	継続	引続き市内大会を継続することにより、各校の交流を促進するとともに競技力向上を図る。
27	1	②		環境創造課	風力発電施設「風電君」見学事業	市民等が、環境に関する教育及び学習の振興を図るために行う静岡市風力発電施設「風電君」の見学の機会を提供する。		●	●	●	●	●	●	●	●	●	有	1,126人	見学者数:1,000人	524人	5,848	B	継続	施設見学利用者数の減少を受け、次世代エネルギーパークの構成施設としての積極的なPRを行うため、これまで市ホームページのみで公表していた構成施設に関する情報を、新たな広報媒体(facebook、チラシ等)で積極的に市民(特に小学校)へ周知を行っていく。	
28	1	②		税制課	租税教室	税務署(静岡・清水)に申込みをした市内小学校の6年生を対象に、市の税務関係課の職員を講師として派遣し、租税教室を実施する。 開催時期:通年									●				15校で実施した。 (対象35クラス、児童数936人)	12校で実施予定	11校で実施した。 (対象34クラス、児童数926人) ※学校の都合により、1校実施できなかった。	-	A	継続	児童が税の意義や役割を正しく理解することに貢献できており、引き続き確実に対応していく。
29	1	②		廃棄物処理課	清掃工場施設見学	沼上・西ヶ谷清掃工場の施設見学において、廃棄物処理の仕組み及び廃棄物行政について教育を実施する。		●	●	●	●	●	●	●					見学者数 6,082名	市内小学校に通う4年生児童の社会科授業における施設見学等の受入を行う。	見学者数 5,941名	-	A	継続	評価:計画通り実施 取組:継続

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他								
30	1 2	② ①		子ども未来課	放課後児童クラブ運営事業	昼間就労等で保護者が家庭にいない小学生を対象に、放課後適切な遊びを与え、生活の場を提供し、健全育成を図る。	●	●						有	157室の運営実施	179室の運営実施	179室の運営実施	831,253	A	継続	受託者との連携強化による効果的な事業運営の推進に取り組む。
31	1 2	② ②		教育総務課	南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家自然体験活動(主催事業の実施)	自然の素晴らしさや厳しさにふれながら、自然環境の中で集団訓練、野外活動、自然探求等を通じて豊かな情操を培い、健全な心身の育成を図るもので、自然の家が主催する体験活動を行う。	●	●	●	●	●	●	●		小・中学生対象事業、家族・グループ対象事業を合わせて22事業と自然体験活動指導者育成講座を実施した。荒天により、トム・ソーヤサマーキャンプ及び学生キャンプリダー育成講座が中止となった。全ての事業に事故等はなく、安全に実施した。全体応募率は157%であった。	・小中学生対象事業(トム・ソーヤキャンプ) ・家族グループ対象事業(食文化体験・自然体験・トレイルランニング等) ・自然体験活動指導者育成講座 ・学生キャンプリダー育成講座	小・中学生対象事業、家族・グループ対象事業、自然体験活動指導者育成講座、学生キャンプリダー育成講座を年間22回実施した。台風やコロナウイルス感染症の影響で2事業を中止した。全ての事業に事故等はなく、安全に事業を実施することができた。全体応募率は129%であった。	8,593	A	継続	応募率が200%を超える事業もあり、高い需要に応えるため定員や事業回数を増やすなどの対応を検討する。一方、応募が定員に満たない事業もあり、プログラムの内容について見直しを進めていく。
33	1 2	② ②		教育総務課	南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家自然体験活動(利用者受入れ)	自然の素晴らしさや厳しさにふれながら、自然環境の中で集団訓練、野外活動、自然探求等を通じて豊かな情操を培い、健全な心身の育成を図るもので、小中学校が主体となる、宿泊訓練や、その他団体による自然体験活動を行う。	●	●	●	●	●	●	●		182団体、延12,627人が利用した。このうち、小中学校の利用は25団体、延5,469人だった。	利用者に対し、安心・安全な施設運営を行い、計画的に利用者を受け入れていく。あわせて、新館宿泊棟及び食堂棟の大規模改修工事を実施し、安心・安全性と快適性を高める。	204組、延11,651人が利用した。このうち、小中学校の利用は17校、3,515人であった。一方、個人での利用は前年比200人増の673人であった。また、新館宿泊棟及び食堂棟の大規模改修工事を予定通り完了した。	36,675	A	継続	小学校の自然体験活動が他施設で実施される傾向にあり、学校利用が年々減少している。学校が自然体験活動に求めるねらいに沿った活動プログラムを提供し、井川自然の家の利用を促していく。また、増加傾向にある個人での利用をさらに増やしていくため、リニューアルした個室を活用する。
35	1 2	② ②		環境創造課	こどもエコクラブ事業	子ども達が将来にわたり環境を大切にする意識を持ち、環境に優しい暮らしを実践していくために、環境学習や実践活動を支援していく。(環境省事業)	●	●	●				●		参加団体:5 クラブ数:5 参加者:419人	参加団体:5 クラブ数:5 参加者:400人	参加団体:4 クラブ数:4 参加者:400人	-	A	継続	現状では積極的な周知を実施していないが、市ホームページ等を利用し、事業周知による参加団体、参加者の増加につなげていきたい。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	再掲	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他	保 護 者								
再	2	①	83	教育総務課	放課後子ども教室推進事業	地域・学校の連携協力により、学校施設を活用し、子どもたちの様々な体験学習や異世代間交流等の「学びの場」を提供する。 (H19新規、国庫補助事業)	●	●								平成29年度実施の33校に新たに11校を加えた計44校で実施。	平成30年度実施の44校に新たに32校を加えた計76校で実施予定。	平成30年度実施の44校に新たに31校加えた計75校で実施。	65,245	A	継続	未実施校についても順次開設していくことを予定している。 また、令和2年度から、本事業と「学校応援団推進事業」を統合した「地域学校協働活動推進事業」の円滑な実施に取り組む。
36	1	②		青少年育成課	校庭開放事業	小学校の授業終了後から下校時刻までの間、校長の承認のもとにPTAにより設置された運営委員会が校庭等を利用して、安全な遊び場を提供するための事業及び運営費に対して補助金を交付する。	●	●						有	実施校9市立小学校	実施校2市立小学校	実施校2市立小学校	800	A	廃止	放課後において児童に安全な遊び場を提供し、児童相互のふれあいの場とすることが出来た。 R2より、教育委員会所管の子ども教室事業に完全移行した。	
37	1	③		観光・MICE推進課	静岡型体験観光推進事業	本市の歴史・風土などにより培われた多くの資源を体験プログラムとして整備・提供し、一般観光客、教育旅行等の交流人口の増加を図る。	●	●	●	●	●	●	●	有	体験プログラムの利用件数788件	体験プログラムの利用件数1,000件	体験プログラムの利用件数771件	3,929	B	継続	目標には届かなかったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、修学旅行や教育旅行で首都圏等を選んでいった学校をターゲットとし、本市で実施してもらえるよう、支援団体とともにPRしていく。	
38	1	③		国際交流課	訪日教育旅行誘致事業	海外の学生を対象に教育旅行を誘致し、中高生との交流を通じて国際相互理解を深めるとともに、外国人観光客の増大を図る。				●	●	●			訪日教育旅行誘致実績27件	訪日教育旅行誘致実績25件	訪日教育旅行誘致実績35件	194	A	継続	補助金を更に使いやすく改善する必要がある。	
39	1	③		水産漁港課	しずまえ漁業見学ツアー実施事業	次世代を担う子供を中心に、静岡市の前浜「しずまえ」で獲れる魚や実際の漁を行っている風景を見学してもらうことによって、「しずまえ鮮魚」をより身近に感じてもらい、しずまえの水産物の消費の拡大、地産地消の促進、海の恵みを将来に向けて持続的な継承を図る	●	●						有	しずまえマグロ丸ごと体験ツアー 8月23日実施 19組38人	実施回数 1回	しずまえ定置網漁見学ツアー 10月5日実施 18組36人	330	A	継続	「しずまえ」認知度向上のため、引き続き子供達に直接漁業に触れる機会を創っていく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他								
45	1	③		環境創造課	エコモデル推進事業	学校ごと取り組むテーマを設定し、地球温暖化についての体験学習、自然観察等を実施し、環境への興味・関心を深めることにより、地球に優しい行動を自ら行う人材を育成する。			●					有	参加者:221人	参加者:180人	参加者:216人	318	A	廃止	-
46	1	③		環境創造課	水のおまわりさん事業	環境共生の街づくりの一環として、市民調査員による水質調査を実施し、地域の環境意識を高める。		●	●	●	●	●	●	有	参加団体:26 参加者:925人	参加団体:15 参加者:800人	参加団体:30 参加者:1,112人	93	A	継続	事業を通して身近な河川環境に対する興味の醸成と環境保全意識の高揚が図られた。引き続き、様々な水生生物が見られることを各種媒体を使って周知し、参加者の増加につなげる。
47	1	③		まちは劇場推進課	静岡まつり「竹千代キッズ」	静岡まつりの市民総踊り「夜桜乱舞」を小中学生に広めるため、デモンストレーターによる練習会等を実施する。			●	●					小学生・中学生30人程度を募集し、18回の練習会を行い、3月の静岡まつりイベント、4月の静岡まつりへ参加した。	小学生・中学生併せて20人程度を募集し、10回以上の練習会を行い、3月の静岡まつりイベント、4月の静岡まつりへ参加する。	小学生・中学生併せて20人程度を募集し練習会を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、練習回数が減ったことで7回の実施、3月の静岡まつりイベント、4月の静岡まつりへの参加については中止となった。しかし、その影響を除けば、事業周知の観点において成果があったため、「A」評価とした。	671	A	継続	人数を増加させるため、関係機関等と協議し、活動機会の増加を図る。
48	1	③		水道総務課	水に関するポスター展	水の日(8月1日)及び水の週間(8月1日~7日)に関する行事の一環として実施。水は自然の恵みで限りある貴重な資源であることを再認識し、また上下水道事業に対する市民の理解を深めることを目的として静岡市内小学4年生の児童を対象に「水」を題材としたポスターを募集。審査を行い、優秀作品を決定し、受賞作品を各庁舎ロビーに展示し、水に関する啓発を図る。			●						市内の小学4年生から募集。入賞作品を上下水道局庁舎3階展示コーナーに展示した。<8/1~8/30実施>	市内の小学4年生から募集。入賞作品を上下水道局庁舎3階展示コーナーに展示予定。<8/1~8/30実施予定>	市内の小学4年生から募集。入賞作品を上下水道局庁舎3階展示コーナーに展示した。<8/1~8/30実施>	123	A	継続	応募作品数が横ばい状態であるため、募集方法の再検討を行い、応募作品数を増やす。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
策
策
策
策
- ①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
 - ②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
 - ③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
 - ④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
 - 中: 中学生
 - 大: 大学・短大・専門学校生
 - 小高: 小学校高学年
 - 高: 高校生
 - その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	其 他	保 護 者							
49	1	③		海洋文化都市 推進本部	港の広報活動 (清水港見学会)	清水港の重要性や役割、取扱統計等の具体的な講義、臨港地区や海上からの見学を通じ、次代を担う子どもたちの“港”に対する理解を深める。(年齢制限は定めていないが、特に小学校3、5年生の参加が顕著である。)		●	●					●	小学校 38回開催 参加人数 3690人	小学校 28回開催 参加人数 3000人	小学校 37回開催 参加人数 3717人	152	A	継続	昨年の数値を上回る見学会の実施ができた。今後も、参加校増加に向けての呼びかけをしていく。また、国や県と調整しながら広報冊子の改定・充実を図る。
50	1	③		中山間地振興 課	森林教室(自然ウォッチング)	森林インストラクターと共に観察路を歩き、樹木や動植物について説明を受けながら自然を楽しみ、森林の働きを学ぶ。 小学生以上一般市民40名(一般公募)		●	●	●	●	●	●	●	1回実施 申込者 197人	市内の森林の自然観察 募集40人 講師4人 1回実施	1回実施 参加者38名	112	A	継続	・H30と比較して申込者が大きく減少したため、広報手段の拡充が必要である。
51	1	③		中山間地振興 課	森林教室(しいたけ種駒打教室)	椎茸の知識を深めてもらい、実際にコナラ等原木の玉切り、種駒打ちを体験をする。		●	●	●	●	●	●	●	2回実施 126人	森林教室(しいたけ種駒打教室) 2回(2月、3月)	1回実施(2月) 70人 新型コロナウイルスの影響で3月実施予定のものが中止となったが、2月は予定通り実施した。	484	A	継続	・3月は新型コロナウイルスの影響により中止とした。
52	1	③		中山間地振興 課	森林教室(自然観察会)	高山・市民の森園内で植物観察とクラフトを中心に季節に応じた内容の森林教室を開催する。		●	●	●	●	●	●	●	6回実施 165人	6回実施 (1回20家族40人)	5回実施 申込者241人 参加者139人	658	A	継続	・イベントの内容により、応募数に大きくばらつきがある。
53	1	③		中山間地振興 課	森林教室(昆虫観察会)	高山・市民の森園内で昆虫観察を中心に季節に応じた内容の森林教室を開催する。		●	●	●	●	●	●	●	5回実施 207人	6回実施 (1回20家族40人)	5回実施 申込者204人 参加者170人	696	A	継続	・参加者にはリピーターも多く問い合わせも多かったため、今後も継続して実施する。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低: 小学校低学年
中: 中学生
大: 大学・短大・専門学校生
小高: 小学校高学年
高: 高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組		
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画	
54	1	③		中山間地振興課	林業体験教室	高山・市民の森園内でチェーンソー取扱い講習を行い、林業体験(伐採、玉切りなど)を実施する。									●	●	4回実施 50人	4回実施 (1回12人 7月のみ40人)	3回実施 申込者44人 参加者38人	627	B	継続	・参加者の満足度は高いが、応募数が少ない。 ・イベント周知による参加者の増加が必要である。
55	1	③		中山間地振興課	産業フェア(林業祭)工作教室	産業フェアしずおかの林業ゾーンで、主に来場親子を対象に、地域材であるスギ無垢材で製作された椅子、本箱、道具箱等のキットを配布し、木工工作教室を行う。		●	●	●	●	●	●	●			1回実施 参加者 100組	1回(11月) 参加者 100組	1回実施 100組	673の一部	A	継続	・キット数の限り、作業時間の問題があり、参加可能人数に限りが出てしまう。
56	1	③		中山間地振興課	オクズズの森林体感！事業	総合的な学習の時間等において森林や林業に関する授業を実施し、そのなかで森林のもつ重要な働きや、林業にたずさわる人々の苦労を知り、皆で森林を守ろうとする心情を育てる。		●	●								3校実施 46人	市内小学校 10校実施	11校開催 971人	1,264	A	継続	・市内小学校から予想を超える応募があり、多くの児童に林業・製材業等の普及啓発を実施できた。 ・ICTを活用した取組は目新しく、他自治体からも注目を集めているため、今後も継続して実施する。
57	1	③		農業政策課	お茶の美味しい入れ方教室	お茶の入れ方を学ぶことを通じてお茶に対する味覚を育み、お茶を中心とした食育を図るとともに、本市基幹産物であるお茶の啓蒙、消費促進を図る。									●		実施校80校 207教室	静岡市内小学校全90校へ希望調査を取り、希望校に対して実施 (対象:原則小学5・6年生)	実施校73校 189教室	3,360	A	継続	小学校のカリキュラムの関係で実施できない学校があるため、入れ方教室の対応日数、時間数を増やすといった取り組みが必要。
58	1	③		文化財課	登呂遺跡の整備・運営	登呂遺跡を整備し、弥生時代の生活を体験できる体験学習の場を提供する。		●	●	●	●	●	●	●	有		・305日開館 ・企画展5回開催 ・入館者数 月13,983人 ・体験活動 ・各種講座、教育普及活動 ・調査研究活動	・305日開館 ・企画展5回開催 ・体験活動 ・各種講座、教育普及活動 ・調査研究活動	・遺跡を活用した体験事業 ・復元水田事業 ・各種講座、教育普及活動 ・屋外体験者数 148,659人 ・重要文化財登呂遺跡出土品保存修理事業	3,565	A	継続	課題として、リピーターの増加を図るための方策を検討する。令和2年度以降は、登呂遺跡の水田を活用した各種イベントを実施していく。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1 「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
策 ①命の大切さを知り、思いや리를学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低: 小学校低学年
中: 中学生
大: 大学・短大・専門学校生
小高: 小学校高学年
高: 高校生
その他(〜40歳未満)

番号	施策の柱	基本策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額(千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他								
59	1	③		文化財課	文化財資料館の運営	静岡浅間神社が所蔵する資料や、市域の歴史資料などの展示活動を通じて、市民の地域文化に対する意識を高めるとともに、文化財に対する理解を深める。	●	●	●	●	●	●	●	●	・278日開館 ・常設展示 ・企画展2回 ・ミニ企画展1回 ・入館者数10,877人	・常設展示 ・企画展2回 ・ミニ企画展1回	・275日開館 ・常設展示 ・企画展2回 ・特別公開1回 ・入館者数12,974人	14,670	A	継続	子どもに分かりやすい展示
60	1	③		文化財課	埋蔵文化財センターの運営	遺跡の発掘調査において出土した数多くの遺物を貴重な文化財として有効に活用することを目的として、整理・保管するとともに、収蔵品の一部を展示し、市の埋蔵文化財・歴史への理解を深める。	●	●	●	●	●	●	●	●	・出土遺物の整理 ・常設展示 ・企画展4回 ・ギャラリートーク1回 ・発掘調査報告会1回 ・来館者数3,101人	・出土遺物の整理 ・常設展示 ・企画展4回	・出土遺物の整理 ・常設展示 ・企画展4回 ・ギャラリートーク1回 ・発掘調査報告会1回 ・来館者数3,345人	13,175	A	継続	子供にも理解できる内容の解説展示
61	1	③		文化振興課	子どものための音楽ひろば	学校での学年の枠を取り払ったクラスで行う総合音楽講座を実施する。各専門家(合唱・楽器奏法・演劇等)を講師に迎え、多分野にわたる体験をさせ、修了発表会を行う。(静岡音楽館事業)		●	●						有 コンサート鑑賞、修了会を含め年間24回実施した。	コンサート鑑賞、修了会を含め年間24回実施	年間21回実施 ※台風19号及び新型コロナウイルス感染症の影響により、講座・修了会が中止となった。	214,199 の一部	A	継続	引き続き、音楽を通じた他分野にわたる幅広い体験を提供することにより、子どもたちが豊かな感性を養うことを目指す。
62	1	③		文化振興課	芹沢銈介美術館の運営	日本を代表する染色家、芹沢銈介の作品・コレクションの企画展示や作品の保存収集、調査研究を通して、芹沢の芸術を広く紹介し、その偉業を後世に伝えていく。	●	●	●	●	●	●	●	●	・268日開館 ・企画展3回 ・入場者数16,128人	・268日開館 ・企画展3回 ・入場者数17,000人	・267日開館 ・企画展3回 ・入場者数16,635人	41,453	A	継続	令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の影響により入場者数が減少傾向にある。新型コロナウイルス感染症対策を講じ、引き続き安全に開館できるよう努める。また、他施設との連携や教育普及活動の充実、多様な広報媒体の活用により、入場者数の増加を図る。
63	1	③		文化振興課	静岡市芸術文化活動発表会参加奨励補助金	芸術文化の振興を図るため、芸術文化活動の発表会に参加する個人・団体へ補助を行う。	●	●	●	●					有 補助金交付件数44件(519人)	予算額を上限に、申請者に対し補助金を交付	補助金交付件数35件(435人)	1,181	A	継続	申請を受け付けた出場者全員に決定通知、確定通知を送付し補助金を交付することができたため、当初の目標値を達成した。引き続き広報活動を実施し、周知に努める。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画
64	1	③		文化振興課	オーケストラ鑑賞事業	次世代を担う子どもたちの感性を養うために、本物のオーケストラを鑑賞できる機会を提供する。			●	●						平成31年2月7日(木) 2公演 静岡市民文化会館大ホール 入場者数:2,891人	令和2年1月21日(木) 2公演 静岡市民文化会館大ホール	令和2年1月16日(木) 2公演 静岡市民文化会館大ホール 入場者数:1,959人	26,579の 一部	B	継続	学校の授業や行事が多忙化する中、参加型のイベントにおける集客が課題となっている。上記を含め、来年度以降、各事業内容について、団体及び関係課と調整を図りながらリニューアルを行っていく。
65	1	③		文化振興課	静岡市美術館事業	多様な美術表現の公開、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信、美術文化の交流促進により、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図ることを目標とした事業を実施する。 【①展覧会事業】年間5~6本の展覧会の開催、ミュージアム教室等展示解説の実施 講演会等展覧会関連事業の開催 【②交流事業(教育普及事業)】各種ワークショップの開催(「しずびオープンアトリエ」「しずびチビッコプログラム」「プレゼントワークショップ」「暦とあそぶワークショップ」)、トークイベント等の開催	●	●	●	●	●	●				①展覧会事業:5本開催 ②交流事業(教育普及事業):741人	①展覧会事業:5本開催予定 ②交流事業(教育普及事業):随時開催予定	①展覧会事業:5本開催 ②交流事業(教育普及事業):731人	272,293の 一部	A	継続	令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の影響により入館者数が減少傾向にある。展覧会事業や関連事業の充実を図り、他施設との連携や多様な広報媒体の活用により、美術文化を多くの入館者に提供していく。
66	1	③		調査法制課	静岡市子ども模擬議会	議場を見学するだけでなく、実際に議長、議員、市長、局長などの席に座って本会議の流れを模擬体験することで、参加児童に市議会や市政への興味を持ってもらうとともに、家族の関心を高めることにもつなげる。			●						開催校数18校 (1,253人)	開催予定 校数:17校	開催校数18校 (1,150人)	-	A	継続	参加校の先生、児童からは、市議会について学ぶ良い機会だった等の感想があった。今後は、小学生でも親しみやすいシナリオの作成等を行い、静岡市への関心を持ってもらえるよう事業を継続していく。	
216	1	③		駿河区役所地域総務課	魅力づくり事業 (キャラクターPR)	区公認キャラクター「トロペー」を活用したイベント等を実施することで、区の魅力発信や子どもたちの地元への愛着心向上を図る。	●	●	●						・こども園ダンス教室 4回実施 ・区内小学校1年生学級(全80学級)にトロペースタンプ配布実施した。 ・各学区オリジナルトロペーデザイン 応募総数677点 優秀賞19点 優秀賞を原案としたトロペーの新イラストを作成した。	・こども園ダンス教室の実施 7回 ・トロペーLINEスタンプの作成	・こども園ダンス教室 7回実施 ・トロペーLINEスタンプ完成、デザイン作成に区民投票の実施 投票者数2,851名 ・ラッピング公用車「トロペー号」の作製 ・トロペーぬいぐるみの作製、区役所各窓口等設置	1,587	A	継続	継続的な取組により、特に若者を中心にトロペーの認知度の向上が実感できている。キャラクターを通じ本区に更なる愛着をもたせていただくため、引き続き実施していく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

基本 施策	①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する ②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する ③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる ④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する	(対象) 小低:小学校低学年 中:中学生 大:大学・短大・専門学校生	小高:小学校高学年 高:高校生 その他(~40歳未満)
----------	---	---	-----------------------------------

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者									H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組									
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者	総合計画																
217	1	③		駿河区役所地域総務課	魅力づくり事業 (駿河区旬穫祭)	地域と協力し、旬の食材の収穫体験の実施や区特産の農水産物の情報発信を行い、駿河区の「食」に興味を持ってもらう。 (全5回のイベントのうち3回が子ども対象)	●	●	●								●	●	●					●	●			●	●		子どもたちに地域の食材を楽しく知ってもらうことができしており、募集すぐに予約が埋まる人気の事業であることから、引き続き実施していく。
218	1	③		駿河区役所地域総務課	魅力づくり事業 (区民(わたしたち)の提案プロジェクト)	平成29年度に実施した駿河区区民意見聴取事業「区長とまちみがきセッション」において、参加者から提案された内容を事業化し、実施することで、区民とともに区の情報発信を行う。											●	●									A	継続	「若者の力を活かしたまちづくり」を掲げ取り組んでおり、若者のアイデアが区民を惹きつける新たなコンテンツとして発信できていることから、引き続き実施していく。		
219	1	③		駿河区役所地域総務課	駿河区区民意見聴取事業	区の区域に居住し、通学し、又は通勤する市民の参画により区の魅力ある地域づくりを推進するための区民意見聴取を行う。											●	●	●								A	継続	年齢、国籍問わず幅広い区民との意見聴取から課題解決やアイデアがでている区政に反映できていることから、引き続き実施していく。		
67	1 2 6	③ ② ②		文化振興課	伝統文化ワークショップ事業	我が国の伝統文化への理解と関心を深める機会を提供するため、親子を対象に伝統文化に触れるワークショップを開催する。 (実施内容) 茶道(抹茶、煎茶)、落語、神楽、祭囃子等	●	●																			A	継続	定員を大幅に上回る申込のある事業であるため、今後も多岐に渡る文化メニューを提供出来るよう企画内容を検討していく。		

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
施策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組					
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画				
68	1	④		国際交流課	ストックトン市青少年派遣、受入事業(国際交流協会予算)	市内に在住、若しくは市内の中学校・高校に通っている中高生5人を英語スピーチコンテスト上位入賞者の中から面接試験にて決定し、教員の引率者1人と共に夏休みの約2週間を姉妹都市ストックトン市でホームステイし、現地の市民や青少年との交流等を行う。 ストックトン市で作文(静岡へ行きたい理由)、面接で選ばれた5人の派遣生が、7月下旬に来静する。滞在中は市内の家庭にホームステイし、市内の中高生との交流を図る。静岡市からの派遣生と共にアメリカに帰国する。(静岡市国際交流協会)									●	●	●	有	①7月24日(火)から8月6日(月)まで、市内中高生5人、引率者1人を派遣した。ホームステイ、学校訪問、ヨセミテ国立公園でのキャンプなどを通じストックトン市との交流を深めた。 ②ストックトン側の意向により中止。	①【派遣】 7月25日～8月18日にて、市内中高生5名、引率者1名を派遣予定。ホームステイ、学校訪問などを予定している。 ②【受入】 7月8日～18日にて、ストックトン市の青少年4名と引率者1名を受け入れる予定。市内施設や中高訪問、議場見学、富士山へのハイキングを計画している。	①【派遣】 7月25日～8月5日にて、市内中高生5名、引率者1名を派遣し、ホームステイ、学校訪問、ストックトン市長表敬などを実施した。 ②【受入】 7月8日～17日にて、ストックトン市の青少年4名と引率者1名を受け入れ、市内施設や中高訪問、議場見学、富士山のハイキングを実施した。	①815 ②855	A	継続	これまで40年近く青少年交流を重ね、多くの中高生が異文化を体験してきた。ストックトン市側の姉妹都市協会(ボランティア団体)の主要人物が亡くなったことで、姉妹都市交流の連絡調整が以前に比べ難しくなっている。後任の人物を見つけていただくよう、ストックトン市側と調整を進めている。	
69	1	④		国際交流課	牧野スカラシップ(国際交流協会予算)	元静岡市国際交流協会事務局長故牧野豊氏が、生前に静岡市とオマハ市の姉妹都市交流促進に果たした功績を評し、ネブラスカ大学オマハ校(UNO)で勉学を志す静岡市出身学生に対し正規授業料を減免する。UNOでの勉学に強い意欲を持ち、将来に渡り、国際交流・国際協力の分野で活動することを希望する人材を選考しUNOに推薦する。(静岡市国際交流協会)												有	派遣者1名を決定し、平成30年8月からネブラスカ州立大学オマハ校へ派遣した。(学位取得まで、最長5年)	派遣者1名を決定し、令和2年8月からネブラスカ州立大学オマハ校へ派遣する。(学位取得まで、最長5年)	応募者なしのため、派遣できず。	-	-	継続	牧野スカラシップ制度で留学中の学生がオマハ市側で姉妹都市交流の担い手となる一面をもつ。応募数が年々減っており、また、新型コロナウイルス流行に伴い留学の形も異なる今、留学するメリットの明確化や、周知方法の検討が必要である。	
71	1	④		学校教育課	ALT(外国語指導助手)招致派遣事業	外国語指導助手を招致し、幼稚園、小・中学校に派遣し、学級担任とのチーム・ティーチングの授業を行う。(H29からALT招致事業と統合)									●	●	●		ALT(外国語指導助手)45名を招致する 市立全小・中学校に派遣した。	ALT(外国語指導助手)45名を招致する 市立中学校に原則1名を配置、校区小学校へ訪問させる予定。	ALT(外国語指導助手)45名を招致。 市立中学校に原則1名を配置、校区小学校を訪問した。	208,955	A	継続	-	
72	1	④		青少年育成課	青少年国際親善交流事業	青少年に国際交流の機会を提供することで、外国人との相互理解と友好を深め、広い国際的視野と国際協調の精神を養う。									●	●	●	●	有	市内青少年15名と市内ベトナム人留学生3名との交流実施	市内青少年が国際交流できるイベントの実施。	市内中高生14名とワルシャワ日本語学校生7名との交流実施。	44	A	継続	日本文化紹介を通じた交流のみならず、海外の文化の多様性を学ぶなど、国際感覚や相互理解を深める機会を創出するよう努める。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱1「自己有用感を持った子ども・若者の育成」

- 基本
策
①命の大切さを知り、思いやりを学ぶ体験活動を充実する
②規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
③地域に愛着を持ち、地域の発展に貢献する人材を育てる
④グローバル化の視点に立ち、視野を広げる社会体験、国際交流や学習の機会を提供する

- (対象)
小低: 小学校低学年
中: 中学生
大: 大学・短大・専門学校生
小高: 小学校高学年
高: 高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組				
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他									保 護 者			
220	1	④		国際交流課	シェルビービル市青少年派遣、受入事業(国際交流協会予算)	姉妹都市交流の促進、及び姉妹都市交流を支える人材の育成を図る。								●	●	●	●	有	①【派遣】 8月9日～16日まで、中高生5名と引率者2名を派遣し、ホームステイ、小学校訪問、シェルビービル市長表敬などを実施した。 ②【受入】 6月7日～12日まで、中高生、引率者、随行の総勢20名を受入れ、ホームステイ、副市長表敬、議場見学、清掃工場見学など実施した。	①【派遣】8月中旬 8日間 ②【受入】6月上旬 6日間	①【派遣】 8月9日～16日まで中高生9名と引率者2名を派遣し、ホームステイ、シェルビービル市長表敬、学校訪問などを実施した。 ②【受入】 6月6日～11日まで中高生4名と随行者4名を受入れ、ホームステイ、中学校訪問、議場見学や座禅体験などを実施した。	①460 ②264	A	継続	静岡市側からもシェルビービル市側からも参加希望者の多い交流プログラム。旧蒲原町の姉妹都市である経緯から、現在も蒲原地区を中心とした交流に偏っており、静岡市全体への周知と交流の拡大が必要である。
221	1	④		教育センター スポーツ交流課	オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業	市内の小中高等学校にオリンピック・パラリンピック教育を推進するために、推進校を指定し、展開する。		●	●	●							有	推進校25校	推進校25校	4,732	A	継続	推進校13校		
222	1	②		スポーツ交流課	JFAこころのプロジェクト「夢の教室」	JFAから派遣される様々な競技のスポーツ選手を夢先生として講師に迎え、夢先生の体験談をもとに、夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さを子どもたちに伝える授業を実施する。								●			有	実施予定クラス数 3クラス	実施クラス数 3クラス	329	A	継続	予算規模上、実施クラスが限られるが、夢先生による体験談をもとにした授業は貴重な機会であるため、より多くの子ども達に提供できるよう実施クラスの選定方法やPR方法について検討していく。		
223	1	②		文化財課	三保松原文化創造センター	三保松原を訪れる者に名勝及び世界遺産である三保松原の価値や魅力の発信、松原保全に係る普及啓発を行う。		●	●	●	●	●	●						・365日開館 ・常設展示 ・企画展4回開催 ・入館者数210,000人(年間)	・365日開館 ・常設展示 ・企画展4回開催 ・入館者数665,744人(年間)	27,240	A	継続	子どもや若者を惹きつける展示	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
策
- ① 確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 - ② 多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 - ③ 生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 - ④ 一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
小高: 小学校高学年
中: 中学生
高: 高校生
大: 大学・短大・専門学校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他	保 護 者								
73	2	①		学校教育課 教育センター	学校訪問事業	指導主事が学校を計画的に訪問し、授業内容や校内研修について指導助言をすることで、学校における自校ならではの教育実践の一層の充実、向上を図る。		●	●	●						①学校経営支援訪問(当初・要請訪問・ヒアリング)小学校83校、中学校39校 小中学校4校 ②計画訪問 小学校39校、中学校18校 小中一貫校4校	①学校経営支援訪問 ②計画訪問 小学校26校、中学校9校	①学校経営支援訪問 要請訪問・・・小59校 中19校 ②計画訪問 小学校26校、中学校9校	-	A	継続	授業改善に向けての指導助言を引き続き行っていく。令和2年度計画訪問は新型コロナウイルス感染症への対応を考慮し中止。
74	2	①		教育センター	本物の文化・スポーツに接する 機会の充実	文化財の探訪や音楽等の文化活動、芸術作品の鑑賞、様々なスポーツを行うことで子どもは感動を得て夢を育むことから、本物の文化やスポーツに親しむことができる機会の一層の充実を図る。		●	●	●					平成30年6月7・8日に静岡市内の公立・私立小学校6年生5,788名が劇団四季「こころの劇場」を鑑賞した。また、文化庁や県の専門家派遣事業を活用し、本物の文化に親しむ機会を持った。	劇団四季「こころの劇場」を小学校6年生対象に令和元年6月12・13日に鑑賞した。文化庁や県の事業の紹介、募集をし手続きを行う。	令和元年6月12・13日に静岡市内の公立・私立小学校6年生5,772名が劇団四季「こころの劇場」を鑑賞した。また、文化庁や県の専門家派遣事業を活用し、本物の文化に親しむ機会を持った。	-	A	継続	令和2・3年度の劇団四季「こころの劇場」は、新型コロナウイルス感染症対応に伴う劇団の経営悪化のため、中止となる。	
76	2	①		教育センター	学校図書館教育推進事業	児童生徒が本に親しむことにより、読書量の増加や調べ学習の充実が図れるよう、学校図書館の機能を向上させる。		●	●	●					6学級以上の学校、または児童生徒数が60人以上の学校に学校司書を配置した。勤務日数は児童生徒数に応じて設定した。図書館管理システム未配備校に配備した。	全ての学校に学校司書を配置する。(昨年度の学校司書未配置校には兼務で2名の学校司書が巡回する。)勤務日数は児童生徒数に応じて設定する。	全ての学校に学校司書を配置した。(児童生徒数60人以上の学校104校に学校司書を配置。60人未満の学校21校には、学校司書兼支援員を兼務で配置。)勤務日数は、児童生徒数に応じて設定した。	61,640	A	継続	学校司書の勤務や研修の拡大と授業での学校図書館の活用を図る。	
78	2	①		環境創造課	環境学習指導員派遣事業	地域や学校等の多様な場で行われる環境保全に関する教育や自然を体験的に学ぶ学習会等に講師(環境学習指導員)を派遣し、自発的な環境保全活動の促進を図る。		●	●	●	●	●	●	有	派遣回数:102回 派遣指導員数:200名	派遣回数:100回 派遣指導員数:200名	派遣回数:99回 派遣指導員数:200名	2,530	A	継続	専門的分野の講師派遣により科目に沿った講義が実施できる。各種媒体を利用し事業周知を実施し多くの参加者の増加につなげたい。	
79	2	①		環境保健研究所	夏休み講座	主に小中学生を対象として、科学に興味を抱くような実験を体験してもらう(環境・食品・微生物の分野から実施可能な講座を開催)	●	●	●	●	●	●			平成30年8月12日出展 参加人数255人	静岡科学館る・く・るで開催される、サイエンスフェスティバルる・く・る「青少年のための科学の祭典」に出展	令和元年8月12日出展 参加人数300人	127	A	継続	今後も多くの子どもたちに科学の不思議さ、楽しさを実感してもらうことのできるテーマを設定の上、引き続き実施していく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
策
①確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
②多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
③生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
④一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(～40歳未満)

番号	再掲	基本 策 の 柱	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	その他	保護 者									
80	2	①		中央図書館	図書館事業	定例おはなし会や読み聞かせボランティアの活用など、子どもときから本の魅力を知るための事業やヤングアダルトの支援を目的とした事業等を実施する。また、南部図書館、清水中央図書館の視聴覚ホールにおいて、青少年育成に役立つアニメ・劇映画の上映会などの事業を実施する。※マビック廃止のための変更。											980回実施 【内訳】 イベント・講座 107回 おはなし会 829回 南部・清水中央子ども映画会 44回	前年度同様、定例おはなし会や読み聞かせボランティアの活用など、子どもときから本の魅力を知るための事業やヤングアダルトの支援を目的とした事業等を実施する。また、南部図書館、清水中央図書館の視聴覚ホールにおいて、青少年育成に役立つアニメ・劇映画の上映会などの事業を実施する。	933回実施 【内訳】 イベント・講座 131回 おはなし会 769回 南部・清水中央子ども映画会 44回	584	A	継続	令和2年2月までは、計画に沿って順調に進行していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で休止となった。今後は新型コロナウイルス感染予防対策をとりつつ実施。
再	6 2	④ ①	215	子ども未来課	児童館運営事業	児童に健全な遊びを与えて健康を増進し、情操豊かにすることを目的とした地域児童の健全育成のための拠点施設である児童館において、18歳未満の児童を対象とし、さまざまな行事・教室を開催する。											市内12館の指定管理による運営実施	市内12館の指定管理による運営実施	市内12館の指定管理による運営実施	226,816	A	継続	指定管理者等との連携強化による効果的な事業運営の推進に取り組む。
再	1 2	② ①	30	子ども未来課	放課後児童クラブ運営事業	昼間就労等で保護者が家庭にいない小学生を対象に、放課後適切な遊びを与え、生活の場を提供し、健全育成を図る。								有			157室の運営実施	179室の運営実施	179室の運営実施	831,253	A	継続	受託者との連携強化による効果的な事業運営の推進に取り組む。
81	2 2	① ②		文化振興課	静岡科学館事業	体験することを通して身近な科学に親しみ、科学への関心を高める事業を実施する。								有			常設展示50点 毎土日祝日にサイエンスショーや科学工作等のソフト事業を実施した。	常設展示47点 毎土日祝日にサイエンスショーや科学工作等のソフト事業を実施予定	常設展示47点 毎土日祝日にサイエンスショーや科学工作等のソフト事業を実施した。	202,630 の一部	A	継続	引き続き、企業や大学等と連携したソフト事業の実施により、新しい技術などを多くの来館者に提供していく。
82	2 3	① ①		児童生徒支援課	静岡市高等学校定時制通信制教育振興会補助金	補助金交付団体 ①静岡市高等学校定時制通信制教育振興会 ②静岡県立清水東高等学校定時制教育振興会											2振興会に補助金を交付した。	2振興会に補助金を交付した。	2振興会に補助金を交付した。	1485	A	継続	-
83	2 1	① ③		教育総務課	放課後子ども教室推進事業	地域・学校の連携協力により、学校施設を活用し、子どもたちの様々な体験学習や異世代間交流等の「学びの場」を提供する。 (H19新規、国庫補助事業)											平成29年度実施の33校に新たに11校を加えた計44校で実施。	平成30年度実施の44校に新たに32校を加えた計76校で実施予定。	平成30年度実施の44校に新たに31校を加えた計75校で実施。	65,245	A	継続	未実施校についても順次開設していくことを予定している。また、令和2年度から、本事業と「学校応援団推進事業」を統合した「地域学校協働活動推進事業」の円滑な実施に取り組む。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
策
策
策
- ① 確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 - ② 多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 - ③ 生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 - ④ 一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
- 小低：小学校低学年 小高：小学校高学年
中：中学生 高：高校生
大：大学・短大・専門学校生 その他（～40歳未満）

番号	再掲	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他	保 護 者								
再	1 2	② ②	31	教育総務課	南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家自然体験活動 (主催事業の実施)	自然の素晴らしさや厳しさにふれながら、自然環境の中で集団訓練、野外活動、自然探求等を通じて豊かな情操を培い、健全な心身の育成を図るもので、自然の家が主催する体験活動を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	小・中学生対象事業、家族・グループ対象事業を合わせて22事業と自然体験活動指導者育成講座を実施した。荒天により、トム・ソーヤサマーキャンプ及び学生キャンプリーパー育成講座が中止となった。全ての事業に事故等はなく、安全に実施した。全体応募率は157%であった。	●小中学生対象事業(トム・ソーヤキャンプ) ●家族グループ対象事業(食文化体験・自然体験・トレイルランニング等) ●自然体験活動指導者育成講座 ●学生キャンプリーパー育成講座	小・中学生対象事業、家族・グループ対象事業、自然体験活動指導者育成講座、学生キャンプリーパー育成講座を年間22回実施した。台風やコロナウイルス感染症の影響で2事業を中止した。全ての事業に事故等はなく、安全に事業を実施することができた。全体応募率は129%であった。	8,593	A	継続	応募率が200%を超える事業もあり、高い需要に応えるため定員や事業回数を増やすなどの対応を検討する。一方、応募が定員に満たない事業もあり、プログラムの内容について見直しを進めていく。	
再	1 2	② ②	33	教育総務課	南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家自然体験活動 (利用者受入れ)	自然の素晴らしさや厳しさにふれながら、自然環境の中で集団訓練、野外活動、自然探求等を通じて豊かな情操を培い、健全な心身の育成を図るもので、小中学校が主体となる、宿泊訓練や、その他団体による自然体験活動を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	182団体、延12,627人が利用した。このうち、小中学校の利用は25団体、延5,469人だった。	利用者に対し、安心・安全な施設運営を行い、計画的に利用者を受け入れていく。あわせて、新館宿泊棟及び食堂棟の大規模改修工事を実施し、安心・安全性と快適性を高める。	204組、延11,651人が利用した。このうち、小中学校の利用は17校、3,515人であった。一方、個人での利用は前年比200人増の673人であった。また、新館宿泊棟及び食堂棟の大規模改修工事を予定通り完了した。	36,675	A	継続	小学校の自然体験活動が他施設で実施される傾向にあり、学校利用が年々減少している。学校が自然体験活動に求めるねらいに沿った活動プログラムを提供し、井川自然の家の利用を促していく。また、増加傾向にある個人での利用をさらに増やしていくため、リニューアルした個室を活用する。	
85	2	②		まちは劇場推進課	「まちは劇場」推進事業 まちは劇場コンサート事業	「学校訪問コンサート」 児童・生徒の音楽に対する理解及び関心を高め、青少年の情操教育に資するため、小中学校を訪問し、生演奏を気軽に鑑賞することができる機会を提供する。	●	●	●					有	公演回数14回 (小学校8校、中学校4校、特別支援学校2校) 参加者数：4,549人	公演回数14回(小学校7校、中学校4校、特別支援学校3校)	公演回数14回 (小学校7校、中学校4校、特別支援学校3校) 参加者数：4,866人	34,500 の一部	A	継続	実施計画のとおり実施できた。学校訪問コンサートの申込校が固定化してきているため、校長会などで引き続き周知をするとともに、こども園などへの活動を新たに実施していく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2 「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本 ①確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 基本 ②多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 施策 ③生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 策 ④一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
 小低: 小学校低学年 小高: 小学校高学年
 中: 中学生 高: 高校生
 大: 大学・短大・専門学校生 その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組			
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他									保 護 者		
86	2	②		まちは劇場推進課	「まちは劇場」推進事業 まちは劇場コンサート事業	「0歳から入れる！親子クラシックコンサート」 親子で気軽に音楽を楽しむことができる機会を提供し、 文化活動に興味関心を高めるため、乳幼児を含む親子 が入場可能なコンサートを開催する。								●	●	有	①平成30年6月2日(土) 静岡市民文化会館大ホ ール 来場者数:1,372人 ②平成30年11月17日(土) 静岡市清水文化会館大 ホール 来場者数:1,213人 ③④平成31年2月23日 (土)(午前午後2公演) 静岡音楽館AOI 来場者数:853人	①令和元年6月29日(土) 静岡市民文化会館大ホ ール 来場者数:1,390人 ②③令和2年2月11日(火・ 祝)(午前午後2公演) 静岡音楽館AOI 来場者数:818人 ④令和2年2月16日(日) 静岡市清水文化会館大 ホール 来場者数:1,033人	①令和元年6月29日(土) 静岡市民文化会館大ホ ール 来場者数:1,390人 ②③令和2年2月11日(火・ 祝)(午前午後2公演) 静岡音楽館AOI 来場者数:818人 ④令和2年2月16日(日) 静岡市清水文化会館大 ホール 来場者数:1,033人	34,500 の一部	A	継続	どの公演も人気の公演となっており、多くの応募がある。今後も引き続き、4公演程度実施していく。	
87	2	②		環境創造課	環境学習ハンドブック作成事業	身近な環境・静岡の環境をハンドブックにして紹介し、子ども達に自然と触れ合う機会を提供し、環境教育の普及啓発を図る。		●	●						●	●	有	・環境学習ハンドブックの改訂 1冊 ・市内全小学4年生に配付	・環境学習ハンドブックの作成又は改訂 1冊 ・市内全小学4年生に配付	・環境学習ハンドブックの作成又は改訂 1冊 ・市内全小学4年生に配付	586	A	継続	ごみ減量推進課の協力により海洋プラスチックに焦点を当てた冊子を作成。今後、漠然と新しい冊子を作成し続けるのではなく、活用場所や方法等と併せて、より効果的な活用をしていきたい。
88	2	②		農業政策課	アグリチャレンジパーク蒲原農業体験講座	アグリチャレンジパーク蒲原の農業体験ほ場で、収穫体験などの農業体験教室を実施することで、農業への理解・関心を深める。		●	●	●	●	●	●		●	●	有	収穫体験(ダイコン・ニンジン・青パパイヤ)と苗植え(ブロッコリー) 101組	収穫体験(ブロッコリー、青パパイヤ)と苗植え(その他野菜) 90組	収穫体験(ブロッコリー、青パパイヤ)、苗植え体験(ひまわり)89組	6,722 の一部	A	継続	募集に対して参加組数が少ないため、周知方法や栽培作物等を検討する。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた実施方法を検討する。
再	1 2	① ②		動物指導センター	動物愛護館体験学習受入	動物愛護館における犬猫の世話、館内清掃等、命に係わる職業を経験することで、心豊かな人間性の育成を図る。			●	●								受入人数 24名	受入予定人数 35名	受入人数 22名	—	B	継続	受入予定人数 35名
再	1 2	② ②	31	教育総務課	南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家自然体験活動(主催事業の実施)	自然の素晴らしさや厳しさにふれながら、自然環境の中で集団訓練、野外活動、自然探求等を通じて豊かな情操を培い、健全な心身の育成を図るもので、自然の家が主催する体験活動を行う。		●	●	●	●	●	●					小・中学生対象事業、家族・グループ対象事業を合わせて22事業と自然体験活動指導者育成講座を実施した。荒天により、トム・ソーヤサマーキャンプ及び学生キャンプリーター育成講座が中止となった。全ての事業に事故等はなく、安全に実施した。全体応募率は157%であった。	・小中学生対象事業(トム・ソーヤキャンプ) ・家族グループ対象事業(食文化体験・自然体験・トレイルランニング等) ・自然体験活動指導者育成講座 ・学生キャンプリーター育成講座	小・中学生対象事業、家族・グループ対象事業、自然体験活動指導者育成講座、学生キャンプリーター育成講座を年間22回実施した。台風やコロナウイルス感染症の影響で2事業を中止した。全ての事業に事故等はなく、安全に事業を実施することができた。全体応募率は129%であった。	8,593	A	継続	応募率が200%を超える事業もあり、高い需要に応えるため定員や事業回数を増やすなどの対応を検討する。一方、応募が定員に満たない事業もあり、プログラムの内容について見直しを進めていく。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
策
①確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
②多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
③生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
④一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他	保 護 者							
再	1 2	② ②	35	環境創造課	こどもエコクラブ事業	子ども達が将来にわたり環境を大切にすることを意識を持ち、環境に優しい暮らしを実践していくために、環境学習や実践活動を支援していく。(環境省事業)		●	●	●					参加団体:5 クラブ数:5 参加者:419人	参加団体:5 クラブ数:5 参加者:400人	参加団体:4 クラブ数:4 参加者:400人	-	A	継続	現状では積極的な周知を実施していないが、市ホームページ等を利用し、事業周知による参加団体、参加者の増加につなげていきたい。
再	1 2 6	③ ② ②	67	文化振興課	伝統文化ワークショップ事業	我が国の伝統文化への理解と関心を深める機会を提供するため、親子を対象に伝統文化に触れるワークショップを開催する。 (実施内容) 茶道(抹茶、煎茶)、落語、神楽、祭囃子等		●	●						8月4日(土)、5日(日) 1日2回(計4回) 静岡市民文化会館 実施内容:茶道(抹茶、煎茶)、木遣 参加者数:190人	8月3日(土)、4日(日) 1日2回(計4回) 静岡市民文化会館 実施内容:茶道(抹茶、煎茶)、琴	令和2年8月3日(土)、4日(日) 1日2回(計4回) 静岡市民文化会館 実施内容:茶道(抹茶、煎茶)、琴 参加者数:218人	26,579の 一部	A	継続	定員を大幅に上回る申込のある事業であるため、今後も多岐に渡る文化メニューを提供出来るよう企画内容を検討していく。
89	2	②		青少年育成課	少年教室事業	①少年教室 地域の青少年の育成のため、各地区少年教室運営委員会を組織し、概ね小学校4～6年生を対象に自然体験等の年間プログラムを展開する。 ②少年いかだまつり 三保内浜海水浴場において、いかだレースといかだコンクールを行う。			●					有 登録教室整数 12教室 339人で実施	登録教室生数 11教室 300人で実施予定	登録教室生数 11教室 330人で実施予定	1,798	A	継続	少年教室の活動を通じ、子ども達に異年齢集団における自然体験活動や地域活動の機会を提供することが出来た。しかしながら、少年教室の開催団体及び参加児童数が減少傾向にあるため、市HP等により、活動を紹介するなど、効果的な周知・PRを行い、活動の支援に努める。	
90	2 5	② ②		文化振興課	静岡市こどもミュージカル補助金	静岡市こどもミュージカル実行委員会に対し、補助金を交付する。 (静岡市こどもミュージカルは、公募によって集められた子どもたちが主役のミュージカル公演であり、市民により組織された実行委員会が、ミュージカルの創作を通じて子どもたちに創造する喜びを知ってもらうことを目的に、2年に1回開催する。)		●	●	●					8月25日、26日各2回公演を実施。2,258名の来場者があった。	令和2年度の公演に向け出演者オーディションの実施、ミュージカルスクールの入校式を行う。	・出演者オーディション実施 11月16日(土)、17日(日) 応募者数:70名 ・ミュージカルスクール入校式実施 12月8日(日)	200	A	継続	集客につながるよう事業のターゲットを明確にし、それを確実に取り込むための事業内容の検討及び積極的な広報活動を促す。
91	2 6	② ④		商業労政課	若者の地元就職・UIJターン就職促進事業(大学生向け市内で働く魅力発見セミナー)	市内企業への就職促進策の一環として、学生に対し、市内企業の認知度向上を図るとともに、魅力ある就職先があることを伝え、市内企業への就職を促すため、市内企業の経営者等と学生の意見・情報交換会を開催する。								有 開催10回 参加学生の市内企業への就職関心度 86.9%	開催5回 参加学生の市内企業への就職関心度90%以上	開催10回 参加学生の市内企業への就職関心度 97%	14,162 (若者の地元就職・UIJターン就職促進事業の一部)	A	継続	キャリア教育として必要であることと、参加学生を確保するため、授業の一環として実施できるよう大学との連携を深めていく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
策
- ①確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 - ②多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 - ③生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 - ④一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
- 小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
- 小高:小学校高学年
高:高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他	保 護 者								総 計 画
92	2	②	①	生涯学習推進課	生涯学習施設における講座	子どもたちに対して、多様な体験活動等を通して、健やかな成長を促し、豊かな人間性を育むことを目的とした各種講座を実施する。		●	●	●					37施設中33施設において、子どもを対象とした各種講座を実施。	子どもを対象とした各種講座の実施設数 37施設中32施設	子どもを対象とした各種講座の実施設数 37施設中33施設	指定管理料の一部及び26千円(梅ヶ島交流館)	A	継続	子どもたちに対して、多様な体験、学習活動の機会を提供することができた。今後も、新型コロナウイルス感染症防止策を徹底したうえで講座を企画していく	
93	2	③		学校給食課	食に関する指導の充実	小中学校の児童生徒に対し、食に関する正しい知識や望ましい食習慣について教職員や栄養教諭等が指導を実施する。		●	●	●					食に関する指導を各学年1回以上実施。 うち、栄養教諭・学校栄養職員・栄養士による支援の食に関する指導を全体計画に明記するよう促した。	食に関する指導を各学年1回以上実施。 食に関する指導の授業研修会を実施する。	食に関する指導を各学年1回以上実施できた学校76%(新型コロナウイルス感染拡大防止で3月に学校が休校となり、予定通りに実施できなくなったため)食に関する指導の授業研修会を3回実施した。	-	B	継続	(課題) 教職員と栄養教諭等が連携して取り組むために参考となるものが不足している。(今後の取組) 今年度、休校期間が長期化し、各学校で授業数が圧迫されている。授業1時間の実施にこだわらず、各校の状況に合わせ、柔軟に対応をしていく。	
94	2	③		児童生徒支援課	子どもの顎関節と歯並びの健康相談会	歯列、咬合に関する相談及び顎関節に関する専門医による相談会を、児童・生徒とその保護者に実施する。		●	●	●			●		8月2日実施。歯科医師による個別相談を実施し、参加者からは参考になったとの声が多数聞かれた。	8月1日実施予定	8月1日実施。歯科医師による個別相談を実施し、参加者からは参考になったとの声が多数聞かれた。	-	A	継続	開催方法等の検討をしていく。	
95	2	③		学校教育課 教育センター	体力向上支援事業 (旧名称:静岡市小学生体力・運動能力向上検討委員会)	体力テストを調査・集約し、その結果から体育の授業改善や指導法の工夫、体力づくりの具体をさぐる。		●	●	●					体力向上支援事業を16校に対して行い、授業改善や指導法の工夫について支援した。また、体力向上に関して、授業づくり研修において「投の運動」を実施した。	体力向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、体力向上支援事業等を通して実施。	体力向上支援事業を13校に対して行い、授業改善や指導法の工夫について支援した。また、授業づくり研修において「体づくり運動」の実技指導を行った。	180	A	継続	体力向上の支援については、全校への周知は実施しなかった。学校の実態に応じて個別に対応していく。	
96	2	③		学校教育課	中学校部活動指導員設置事業	静岡市立中学校における部活動の充実を図るため、運動部活動指導員の派遣を行う。								●		外部顧問を17名、外部指導員を123名配置し、部活動指導の充実を図ることができた。	外部顧問を25名、外部指導員を115名配置し、部活動のさらなる充実を図る。	外部顧問を24名、外部指導員を115名配置し、部活動指導の充実を図ることができた。	42,828	A	継続	単独指導・単独引率が可能な外部顧問の配置を拡大することで、教員の多忙解消を図りつつ、部活動指導を充実させることができた。今後の配置拡大にあたっては、専門的かつ適切な指導が行える地域人材の継続的な確保が課題である。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2 「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
策
- ① 確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 - ② 多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 - ③ 生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 - ④ 一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
 - 中: 中学生
 - 大: 大学・短大・専門学校生
 - 小高: 小学校高学年
 - 高: 高校生
 - その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他								
97	2	③		学校教育課 教育センター	学校体育の充実	子どもの体力低下は、生涯にわたる体力の保持・増進の観点から、また豊かな人間性や確かな学力を支えるという観点からも問題であるため、体育の授業や運動部活動の活性化に努める。		●	●	●					●			5	A	継続	・授業づくりの充実に向けての実技指導研修会はコロナの影響で中止。 ・授業づくり研修体育科は、3密対策を講じた上で、調査官を招聘した。コロナ禍における体育の授業についての助言を今後も必要に応じて続けていく。
98	2	③		学校教育課 教育センター	「早寝・早起き・朝ごはん」運動	静岡市の学校及び子どもの課題の一つである「規則正しい生活リズムをつくる」ために、「早寝、早起き、朝ごはん」国民運動に取り組み、健康的で明るい学校づくりと健やかな子どもの育成を推進する。重点的に取り組む学校として小学校5校指定し、その成果を静岡市全体に示し、より実効性ある取り組みを推進する。		●	●	●				●				75	A	継続	教育実践推進校として5校を指定する。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
施策
- ① 確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 - ② 多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 - ③ 生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 - ④ 一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
中: 中学生
大: 大学・短大・専門学校生
- 小高: 小学校高学年
高: 高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組		
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他									保 護 者	
99	2	③		スポーツ振興課	親子参加型教室等の開催	・ベビーとママの3B体操教室 ・おやこ運動教室 ・親子水遊び教室 など、就学前の子と保護者を対象とする教室を開催する。	●	●							●		各体育館・運動場等で実施 ○体育館 開催回数 658回 参加組数 2,012組 ○運動場・プール 開催回数 70回 参加組数 75組	各体育館・運動場等で実施 体育館 746回 運動場・プール 71回	各体育館・運動場等で実施 体育館 704回 運動場・プール 88回 参加組数 2,350組	体育館指定管理料 525,571千円の一部	A	継続	親しみやすい教室内容とすることで参加組数が増加した。今後も定期的に教室内容を点検し、参加組数の増加を図る。
100	2	③		健康づくり推進課	静岡市食育推進計画	生涯食を通じた健康づくりが継続されるよう、基本的な生活習慣や食習慣の確立を目指して、食育の普及啓発を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●		食育推進会議 1回 食育普及啓発事業 10回 食育応援団利用回数 65回	食育推進会議 2回 食育普及啓発事業 10回 食育応援団利用回数 65回	食育推進会議 2回 食育普及啓発事業 17回 食育応援団利用回数 58回	562	A	継続	目標値をおおむね達成することができた。引き続き食育応援団の利用回数の増加を図るため、実施内容がイメージしやすいパンフレットを作成し、関係機関等へ配布する。
101	2	③		健康づくり推進課	歯みがき巡回指導及びフッ化物洗口法指導(フッ化物洗口法によるむし歯予防事業)	幼児期における歯科保健の正しい知識を普及し、幼児の健康の保持増進を図るために、希望のあった認定こども園、幼稚園、保育園3・4・5歳児に対し巡回指導を行う。また、永久歯の歯質強化とむし歯の半減を目指し、希望する園の4・5歳児、小学校児童に対し「フッ化物洗口法」を実施。	●	●	●							●	歯みがき巡回指導 3・4・5歳児 13,619人 (委託事業含む) フッ化物洗口法実施者 4・5歳児 5,740人 小学校児童 511人	歯みがき巡回指導 3・4・5歳児 13,650人 (委託事業含む) フッ化物洗口法実施者 4・5歳児 5,749人 小学校児童 480人	歯みがき巡回指導 3・4・5歳児 13,386人 (委託事業含む) フッ化物洗口法実施者 4・5歳児 5,662人 小学校児童 471人	7,475 委託料、 報償費のみ	A	継続	歯みがき巡回指導を継続実施し、園児や保育者、保護者に向けて歯科保健に対する正しい知識の普及啓発を行う。フッ化物洗口法が適切に実施されているかの確認を行い、必要に応じて指導する。関係課・関係団体とフッ化物洗口の実施拡大に向けた検討を行う。
102	2	③		食品衛生課	食の安全教室(食の安全対策推進事業)	関係各課職員や関係機関職員が学校に出向き、小学校等を対象とした食の安全教室を開催し、食中毒の予防、食品の表示、健康食品などの演題について学習する。		●	●							●	38回 2,425人	25回程度	22回 1,488人	-	A	継続	毎年一定数の応募があり、おおむね高い満足度を得ている。応募数によっては対応する課の負担になる場合がある。今後は、内容の充実、講師のスキルアップや資料の見直しを図る。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
施策
- ① 確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 - ② 多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 - ③ 生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 - ④ 一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
小高: 小学校高学年
中: 中学生
高: 高校生
大: 大学・短大・専門学校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 施策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他	保 護 者							
103	2	③ ②		スポーツ交流課	全国少年少女草サッカー大会	サッカーを通して友情の輪を広げ、技術、体力、精神面における成長の場となるよう予選なしで参加できる少年サッカーの全国大会。 募集チーム数: 男子256チーム、女子32チーム								有	開催期間 H30.8.12(日)～16(木) 参加チーム数 男子256チーム 女子32チーム	開催期間 R1.8.9(金)～13(火) 参加チーム数 男子224チーム 女子32チーム	開催期間 R1.8.9(金)～13(火) 参加チーム数 男子224チーム 女子32チーム	9,669	A	継続	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、まずは大会の開催自体が課題となる。また、県外参加者の確保・受入れについても課題となるため、日本スポーツ協会や日本サッカー協会の示す安全基準等に基づき、実行委員会と連携を図り、十分な安全対策を検討する必要がある。
104	2	④		学校教育課	学力アップサポート事業	有償ボランティアによる放課後の学習指導を行うなど、児童の学力向上を支援します。									市内の小学校15校に約58回程度の支援を行った。事後調査において国語は約12pt、算数は約8ptの上昇が見られた。	全国学力・学習状況調査の分析をもとに、市内の小学校14校程度に有償ボランティアを配置し、基礎学力向上のための支援を行う。	市内の小学校14校に約27回程度の支援を行った。事後調査において国語は約8.8pt、算数は約3.25ptの上昇が見られた。その他アンケート等においても全ての調査項目においてポイントアップした。	4,932	A	継続	市内全小学校81校中、14校での実施になった。更に多くの子ども達に支援が行き渡るよう、支援校の増加が望まれる。令和2年度は、臨時休業中の学力保障のための補充学習による学びサポート事業として放課後の学習を行った。
105	2	④ ②		学校教育課	特別支援教育推進事業	障害のある子ども(幼児、児童、生徒)等への特別支援教育を推進する。 ・特別支援教育の相談活動や支援員の派遣を行い、将来の自立に向けた学校生活を支える。 ・特別支援学級間の交流促進のための事業を行う。									①特別支援教育支援員配置 小中学校に199人の特別支援教育支援員を配置した。 ②特別支援相談 就学に係る相談1,038回、就学支援委員会3回、専門家チームによる巡回相談154回及びケース検討会議(含連携協議会への参加)4回を実施した。 ③特別支援学級連絡協議会 特別支援学級設置校(小学校46校、中学校26校)が、連携・協力して行う各種交流事業を支援した。	①特別支援教育支援員配置 支援を必要とする子どもたちに対するより充実した教育活動が行われるよう、小中学校に支援員を配置する計画。小中学校に209人を配置する計画。 ②特別支援相談 就学に係る相談、就学支援委員会3回、専門家チームによる巡回相談及びケース検討会議4回を実施する。 ③特別支援学級連絡協議会 特別支援学級設置校(小学校50校、中学校29校)が、連携・協力して行う各種交流事業を、支援する。	①特別支援教育支援員配置 小中学校に209人の特別支援教育支援員を配置した。 ②特別支援相談 就学に係る相談1,099回、就学支援委員会3回、専門家チームによる巡回相談169回及びケース検討会議(含連携協議会への参加)4回を実施した。 ③特別支援学級連絡協議会 特別支援学級設置校(小学校50校、中学校29校)が、連携・協力して行う各種交流事業を支援した。	160,300	A	継続	特別支援教育支援員の配置や相談活動の実施により、校内における支援の充実や適正な就学の実現につなげることができた。また、交流事業の実施により、特別支援学級在籍児童生徒の体験の幅を広げることができた。支援を必要とする児童生徒数の増加や、それぞれが必要とする支援の多様化に引き続き対応する必要がある。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱2「知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者の育成」

- 基本
策
- ① 確かな学力の育成とともに、生涯学習への意識を高める
 - ② 多様な体験活動を通して、社会性や感性、郷土愛などの豊かな人間性の育成に取り組む
 - ③ 生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるように、健やかな体の育成に取り組む
 - ④ 一人ひとりの子ども・若者のもつ可能性を伸ばすために、個に対応した教育の支援に取り組む

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
 - 中: 中学生
 - 大: 大学・短大・専門学校生
 - 小高: 小学校高学年
 - 高: 高校生
 - その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他	保 護 者							
106	2	④	①	生活安心安全課	若者のための消費生活啓発講座(ヤングライフセミナー)	若年者を対象に、職員が高校、専門学校、大学等へ出向き、「賢い消費者になるために」と題して、資料・ビデオ上映・クイズなどにより悪質商法に関する情報や生活設計に関する基礎知識を提供する。								8回実施 参加者 2,673人	10回実施	5回実施 参加者 579人	258	B	継続	成年年齢引下げを踏まえ、開催校の拡大	
224	2	①		教育センター	授業で活かすダンス指導事業	中学校保健体育科におけるダンス指導の研修を行うことで授業改善を推進し、生徒がダンスの楽しさをさらに味わうことができるようにする。									4回	ダンス体操～静岡市バージョン～の制作。中学校2校においてダンス授業支援(生徒向け)、ダンス指導研修会(教員)とダンスフェスティバルを開催した。	5,518	A	継続	コロナ禍において、どのようにインストラクターによる授業支援と教員研修を実施していくのかを検討していく。	
84	2	②		青少年育成課	浜石野外センターの運営	青少年をはじめ、広く市民の体育の向上とレクリエーションの増進を図るための体験宿泊施設(平成20年11月由比町との合併により直営化)								延利用者数: 3,999人	延宿泊利用者数: 760人予定	延宿泊利用者数: 699人	24,776	A	継続	宿泊棟解体に伴い宿泊機能は縮小したものの、周知・PRやイベント開催等によりログハウス、テントサイト等の利用者確保を図った。今後も、立地環境や周辺の地域資源等施設の強みを活かした利活用をさらに図るため、地域関係者・団体と連携し、効果的な活用方法を検討するとともに、イベント等を通じて積極的に情報発信していく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 策 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低: 小学校低学年 小高: 小学校高学年
 中: 中学生 高: 高校生
 大: 大学・短大・専門学校生 その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組		
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画	
107	3	①		障害福祉企画課	放課後対策レスパイト事業	市内の特別支援学校の小・中・高等部並びに小・中学校の特別支援学級に通学する身体障害児及び知的障害児の地域生活を支え、健全な育成を図るため、放課後の預かりを行う。		●	●	●	●			有	実施か所 1か所	実施か所 1か所	実施か所 1か所	4,326	A	継続	年々延利用者数が減少しており、事業の継続について検討する必要がある。		
108	3	①		子ども家庭課	児童手当	次代の社会を担う子どもの健やかな育ちを社会全体で支援するため、中学校修了前の子どもの家庭に手当を支給する。	●	●	●	●					30年度支給対象延児童数 948,613人	R元年度支給対象延児童数 950,000人	支給対象延児童数 928,137人	9,908,835 (手当支給額のみ)	A	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知		
109	3	①		子ども家庭課	子ども医療費助成費	保護者の経済的な負担と、子どもの健やかな育成を図るため、助成を行う。	●	●	●	●					医療費支払件数 1,156,472件	医療費支払件数(見込) 1,250,000件	医療費支払件数 1,197,868件	2,327,949	A	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知		
110	3	①		子ども家庭課	子育て短期支援事業費 (ショートステイ)	育児疲れ、育児不安等の解消、児童の虐待防止、並びに子育て家庭への支援を図るため、児童福祉施設等において実施する。	●	●	●	●					3施設で実施。 利用日数延べ86日	3施設で実施。	3施設で実施。 利用日数延べ181日	1,070	A	継続	各区子育て支援課との連携 緊急的な受け入れへの対応		
111	3	①		子ども家庭課	子育て支援ヘルパー派遣事業費	家事・育児を行うことが困難な家庭等に、家事・育児の支援を行うことにより、子育ての負担の軽減や育児不安の予防を図る。	●								利用世帯260世帯	利用世帯260世帯	利用世帯275世帯	1,764	A	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知		
112	3	①		青少年育成課	子どもの自立を支援する講演会	不登校児童生徒等を持つ保護者や教育関係者を対象に、講演会等を企画運営し、側面支援を行う。							●	●	1回開催 参加者:52人	1回開催	1回開催 参加者56名	30	A	継続	保護者、学校関係者ともに参加者の満足度は高かった。引き続きニーズに応じた講演の企画をしていく。		
113	3	①		青少年育成課	適応指導教室の運営	不登校児童等が学校生活に適応するための指導を行うことにより、学校生活への自発的な復帰を支援し、自立を支援する。一人一人の課題克服を目指した適応指導をするために、「人とかかわり」「やりぬく気持ち」「規則正しい生活」「学習への興味や関心」の四つを重点とし、継続的適応指導(カウンセリング、学習、集団指導など)や体験的適応指導(自然体験、社会体験など)を行う。	●	●	●					有	開級日数 ふれあい教室 175日 はばたく教室 175日 かがやく教室開設	開級日数 ふれあい教室 180日程度 はばたく教室 180日程度 かがやく教室 180日程度	開級日数 ふれあい教室 178日 はばたく教室 178日 かがやく教室 178日	7,232	A	継続	通級生の年代、学習の進み具合、個の実態等に応じた支援の充実を図るよう、年代別のカリキュラム検討やタブレット機器の活用のほか、在学校や保護者との一層の連携強化に努めていく。		
114	3	①		青少年育成課	ひきこもり支援の充実	ひきこもりに特化した相談窓口の整備など支援の充実を図り、ひきこもりの早期回復を図る。							●	●	●	有	継続実施 ひきこもり状態が改善している相談者の割合 64.1%	面接・電話相談、同行支援、居場所活動、啓発活動等の実施。 清水区出張相談の実施。	継続実施 ひきこもり状態が改善している相談者の割合 63.3%	23,432	A	継続	潜在的な相談ニーズへの対応、40代以上の中高年層へのケース対応に向け、福祉分野の関係機関との連携の在り方を検討していく。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 策 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低:小学校低学年 小高:小学校高学年
 中:中学生 高:高校生
 大:大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
						乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画
115	3	①	商業労政課	若年者就労支援業務(ニート対策事業)	ニート等働くことに悩みを抱えている本人やその家族等を対象に就労に向けた支援を行うため、ニートの就労支援セミナーや相談会の開催、関係機関等のネットワークの構築などを行う。										開催 2回 参加者 計49人 出張相談会 10回 心理カウンセリング 20回	開催予定 2回 参加者 計50人 出張相談会 10回 心理カウンセリング 12回	開催 2回 参加者 計64人 出張相談会 10回 心理カウンセリング 19回	979	A	継続	保健福祉長寿局等関係機関と連携し、対象者の掘り起こしに努めていく。
116	3	①	児童生徒支援課	奨学金貸付・給付事業	優秀な人材を育成するため、奨学金を貸与する。 高校生:月額8,000円 短大生:月額15,000円 大学生:月額20,000円 修学困難な学生又は生徒に対し教育奨励費として給付する。 高校生5万円(入学時) 短大・大学生10万円										貸付事業について、予約採用を継続実施 ①奨学金(貸付)219人 高校10人 短大17人 大学192人 ②教育奨励費(給付)32人 高校4人 短大4人 大学24人	貸付事業については予約採用時期の見直しを行う	貸付事業について、予約採用を継続実施 ①奨学金(貸付)252人 高校6人 短大22人 大学224人 ②教育奨励費(給付)33人 高校6人 短大11人 大学16人	貸与 58,191 給付 3,000	A	継続	基準に則り奨学生を選考し、決定者へ適切に貸付・給付した。今後は、日本学生支援機構の給付型奨学金制度拡充による応募者数減少などの影響や、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済状況の変化を考慮し、貸付・給付の両事業内容を検討する。
117	3	①	児童生徒支援課	要・準要保護児童生徒扶助費交付事業	経済的理由により就学困難な児童生徒を対象に、学用品、通学費、修学旅行費、給食費及び医療費等の必要な援助を行う。										小学生(準要保護)2,579人 (要保護)333人 中学生(準要保護)1,311人 (要保護)209人	小学生(準要保護)2,541人 (要保護)269人 中学生(準要保護)1,320人 (要保護)207人	小学生(準要保護)2,544人 (要保護)200人 中学生(準要保護)1,362人 (要保護)200人	小学校 182,699 中学校 158,442	A	継続	-
118	3	①	児童生徒支援課	特別支援教育就学奨励費補助金交付事業	特別支援学級へ就学する児童生徒を養育する保護者の経済的負担を軽減するため、補助金を交付する。										小学生612人 中学生313人	小学生678人 中学生370人	小学生698人 中学生390人	小学生 15,748 中学生 15,128	A	継続	特別支援学級に在籍する児童生徒の増加への対応
119	3	①	児童生徒支援課	遠距離通学費補助金交付事業	国が定める適正距離(小学校4 ^{km} 、中学校6 ^{km})を超えて通学する児童生徒の保護者を対象に、補助金を交付する。										小学生400人 中学生132人	小学生430人 中学生190人	小学生383人 中学生127人	18,912	A	継続	認定者に対して適切に交付した。今後も確実な交付を行う。
再 3	2 3	① 82	児童生徒支援課	静岡県高等学校定時制通信制教育振興会補助金	補助金交付団体 ①静岡県高等学校定時制通信制教育振興会 ②静岡県立清水東高等学校定時制教育振興会										2振興会に補助金を交付した。	2振興会に補助金を交付した。	2振興会に補助金を交付した。	1,485	A	継続	-

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 本 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 施 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 策 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低: 小学校低学年 小高: 小学校高学年
 中: 中学生 高: 高校生
 大: 大学・短大・専門学校生 その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
						乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者							
120	3	③	教職員課	こころの教育支援事業	小中学校に非常勤講師を配置し、生徒指導主任等の代わりに授業を行い、生徒指導主任等がいじめや不登校に対応する時間を確保する。 また、非常勤講師の配置により児童生徒一人ひとりの心の安定と学習の充実を図る。	●	●	●						市内15校に各1名、市内9支部に各1名、合計24人工(27名)の非常勤講師を配置した	市内15校に各1名、市内9支部に各1名、合計24人工(26名)の非常勤講師を配置	市内15校に各1人工、市内9支部に各1人工、合計24人工(26名)の非常勤講師を配置	48,190	A	継続	支部に配置されている学校や配置されなかった学校からも、非常勤講師の配置を望む声が多くある。講師の質の向上を図るための研修の機会が不足している。
121	3	①	青少年育成課	子ども若者相談事業	【面接相談】 ○相談受付:(土日祝・年末年始を除く)8時30分～17時15分 相談対象者:39歳までの子ども・若者及びその保護者・関係者 【電話相談】 ○こころのホットライン 相談受付:(土日祝・年末年始を除く)毎日9時～17時 相談対象者:20才までの青少年及びその保護者・関係者 ○24時間いじめ電話相談 相談対象者:小中学生及びその保護者・関係者	●	●	●	●	●	●	●	●	①面接相談 480人 7,010回 ②こころのホットライン 受付件数 400件 ③24時間いじめ電話相談 相談受付 950件	①面接相談 相談受付:平日8時30分～17時15分 ②こころのホットライン 相談受付:平日9時～17時 ③24時間いじめ電話相談 相談受付:毎日24時間	①面接相談 489人 7,151回 ②こころのホットライン 受付件数 345件 ③24時間いじめ電話相談 相談受付 562件	10,845	A	継続	相談内容が多様化・複雑化してきている中で、より関係機関との連携の必要性を感じるため、連携の在り方を検討していく。
122	3	①	青少年育成課	高等学校学習支援事業	高等学校在学者の学習を支援することで、高校卒業資格の取得を促すとともに、同世代との関わりやレクリエーション活動等により、よい仲間づくりを進める。								●	学習会の延べ開催時間 198時間	学習会の実施 年間50回程度	学習会の実施 年間52回 延べ参加人数 年間264人	548	A	廃止	今後は、学習面だけでなく集団生活や仲間づくりに課題をもつ若者が、社会とのつながりをつくるための取り組みを実施していく。
123	3	②	障害福祉企画課	障害者相談支援事業	障害のある人及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言などの支援を実施する。 ①障害者相談支援推進業務 ②障害者等相談支援事業(身体障害) ③障害者等相談支援事業(知的障害) ④障害者等相談支援事業(重心) ⑤成年後見制度利用支援事業 ⑥自立支援協議会	●	●	●	●	●	●	●	●	①相談件数 400件 ②～④相談件数 19,645件 ⑤市長申立人数 3人 ⑥開催回数 2回 ※実施箇所数は計画どおり	①障害者相談支援推進業務(1か所で実施) ②～④障害者等相談支援事業(7か所で実施) ⑤成年後見制度利用支援事業(3か所 各区障害者支援課実施) ⑥障害者自立支援協議会 2回開催/年	①相談件数 848件 ②～④相談件数 19,089件 ⑤市長申立人数 2人 ⑥開催回数 2回	①～④ 110,592 ⑤35 ⑥180	A	継続	困難事例が増えてきた場合、相談支援推進業務と相談支援業務での対応についての棲み分けを検討していく必要がある。
124	3	②	障害福祉企画課	発達障害者支援センターの運営	発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関から相談を受けるとともに、発達障害に対する情報発信を行い、発達障害の理解と支援を広めるために研修会や各機関への講師派遣を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	①相談件数 3,780件 ②関係機関コンサルテーション件数 130件 ③市民・外部機関向け講座開催 80回	①相談支援 870件 ②発達支援 1,050件 ③就労支援 100件 ④巡回支援回数 100件	①相談支援 800件 ②発達支援 1,807件 ③就労支援 325件 ④巡回支援回数 124件	51,090	A	継続	相談支援件数は目標値を下回っているが引き続き支援が必要な方への相談業務を行う。
125	3	②	障害者支援推進課	特別障害者手当等給付(うち経過的福祉手当を除く)	精神又は身体に重度の障害を有する在宅の児童または者に対して、生活の向上と福祉の増進を図ることを目的として、手当を支給する。	●	●	●	●	●	●	●	●	受給者数 (特別障害者手当)1006人 (障害児福祉手当)364人	受給者数 (特別障害者手当)1007人 (障害児福祉手当)368人	受給者数 (特別障害者手当)926人 (障害児福祉手当)329人	363,374	A	継続	引き続き、適切な特別障害者手当等給付を行っていく。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 本 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 施 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 策 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低:小学校低学年 小高:小学校高学年
 中:中学生 高:高校生
 大:大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
						乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者							
126	3	②	障害者支援推進課	重度障害児扶養手当給付	精神又は身体に重度の障害を有する在宅の20歳未満の児童の保護者に対して、生活の向上と福祉の増進を図ることを目的として、手当を支給する。	●	●	●	●	●	●	20未満	●	受給者数 (5,000円対象児数) 133人 (3,000円対象児数) 557人	受給者数 (5,000円対象児数) 133人 (3,000円対象児数) 602人	受給者数 (5,000円対象児数) 120人 (3,000円対象児数) 596人	28,748	A	継続	引き続き、適切な重度障害児扶養手当給付を行っていく。
127	3	②	障害者支援推進課	児童発達支援事業	障害児に対し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの療育を行うとともに、障害児の家族に対して支援を行う。	●								3,216人日/月	3,696人日/月	4,166人日/月	620,754	A	継続	法改正に対応した適正なサービス提供に努める。
128	3	②	障害者支援推進課	放課後等デイサービス	学校通学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所を提供する。	●	●	●	●					16,514人日/月	18,991人日/月	19,092人日/月	2,300,168	A	継続	法改正に対応した適正なサービス提供に努める。
129	3	②	障害者支援推進課	保育所等訪問支援	保育所等(保育所・幼稚園・放課後児童クラブなど)を利用中の障害児又は、今後利用する予定の障害児が保育所等における集団生活の適応のための専門的な支援を必要とする場合に、保護者の申請により訪問支援員が保育所等を訪問し、保育所等の安定した利用を促進しようとするもの	●	●	●						6人日/月	16人日/月	11人日/月	2,178	B	継続	法改正に対応した適正なサービス提供と、サービスが必要な障害児に対する制度の浸透に努める。
130	3	②	障害者支援推進課	自立支援給付事業	障害のある子ども・若者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるようにするため、障害者総合支援法に基づく自立支援給付費の支給を行う。	●	●	●	●	●	●	●		(身体・知的) (訪問系) 2558時間/月 (短期入所) 1558人日/月 320人 (精神) (訪問系) 3563時間/月 (短期入所) 4人 (それぞれ障害児・者全体)	(身体・知的) (訪問系) 25,954時間/月 (短期入所) 1,682人日/月 358人 (精神) (訪問系) 3950時間/月 (短期入所) 4人 (それぞれ障害児・者全体)	(身体・知的) (訪問系) 26,371時間/月 (短期入所) 1,558人日/月 339人 (精神) (訪問系) 3,358時間/月 (短期入所) 6人 (それぞれ障害児・者全体)	1,107,240	A	継続	法改正に対応した適正なサービス提供に努める。
131	3	②	障害者支援推進課	重度心身障害者医療費助成事業	重度心身障害者が疾病等により医療機関等で治療した場合に、経済的な負担を軽減する目的から、医療保険診療に係る自己負担及び訪問看護等基本利用料を助成する。	●	●	●	●	●	●	●		14362人(うち精神301人)	14400人(うち精神300人)	14,303人(うち精神311人)	1,225,956	A	継続	医療費助成について、県及び県内市町と協議し、助成方法の検討を進めていく。
132	3	②	障害者支援推進課	障害者タクシー利用料金助成事業	在宅の重度心身障害者に対し、タクシー利用料金の一部を助成することにより、その生活圏の拡大及び社会参加の促進を図り、障害者福祉の増進に寄与する。	●	●	●	●	●	●	●		交付者数 普通タクシー券3,655人 車いす用タクシー券98人	利用枚数 普通タクシー券44,189枚 車いす用タクシー券3,316枚	交付者数 普通タクシー券3,271人 車いす用タクシー券87人	24,888	A	継続	引き続き、タクシー券の適正な給付に努める。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 本 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 施 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 策 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低: 小学校低学年 小高: 小学校高学年
 中: 中学生 高: 高校生
 大: 大学・短大・専門学校生 その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
						乳 幼児	小 低	小 高	中	高	大	その他								
133	3	②	障害者支援推進課	地域生活支援事業(移動支援事業)	障害者が自立した日常生活又は社会生活を営むために、屋外での移動が困難な障害者等に対して、ガイドヘルパーによる外出の支援に要する費用の一部を助成する。	●	●	●	●	●	●	●	●	延べ利用者数(見込み) 8,943人/年	延べ利用者数(見込み) 8,739人/年	延べ利用者数(見込み) 8,599人/年	172,677	A	継続	制度や利用について周知を図る
134	3	②	学校教育課	静岡市特別支援連携協議会	福祉、教育、保健、医療、労働等の関係機関相互の連携を深め、情報の一元化を図ることにより、特別な支援を要する人に対する総合的な相談及び支援、地域での一貫した相談及び支援体制の構築をめざす。	●	●	●	●	●	●	●	●	協議会本会議 …2回開催(7/11、2/6) 作業部会(早期支援部会) …2回開催(7/25、10/24) 作業部会(教育支援部会) …2回開催(8/24、11/26) 作業部会(自立支援部会) …2回開催(7/23、11/8)	・協議会本会議を2回開催する。 ・協議会作業部会(早期支援部会、教育支援部会、自立支援部会)を、それぞれ2回開催する。	協議会本会議 …2回開催(7/10、2/5) 作業部会(早期支援部会) …2回開催(7/24、10/18) 作業部会(教育支援部会) …2回開催(8/26、11/25) 作業部会(自立支援部会) …2回開催(7/22、11/7)	-	A	継続	関係機関による取組について情報を共有できた。切れ目のない支援の実現に向け、引続き相互の連携を進める必要がある。
再 1 3	① ②	11	日本平動物園	学校対応事業	①ふれあい教室の実施(小学校低学年・特別支援学校等対象) ②飼育体験実習の受入れ(主に中学・高校・大学生の職業体験等) ③ツアーガイドの実施(小学・中学・高校生を対象にした園内ツアーガイド) ④出張動物園ガイド/講演(飼育担当者が学校を訪問し講演) ⑤校外学習の受入れ(学校の授業の一環としての質問への対応等)	●	●	●	●	●	●	●	●	①111回実施 ②34人受入れ ③30回実施 ④21回実施 ⑤13回受入れ	①100回実施 ②30人受入れ ③30回実施 ④20回実施 ⑤5回受入れ	①147回実施 ②32人受入れ ③35回実施 ④25回実施 ⑤6回受入れ	動物園管理運営経費(経常) 288,280千円の一部	A	継続	R2年度は一部を一定期間中止している事業もあるが、毎年実施している事業であるため、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら、時代のニーズや学校の要望等を踏まえ、事業内容の効率化、適正化を進める。
再 2 3	④ ②	105	学校教育課	特別支援教育推進事業	障害のある子ども(幼児、児童、生徒)等への特別支援教育を推進する。 ・特別支援教育の相談活動や支援員の派遣を行い、将来の自立に向けた学校生活を支える。 ・特別支援学級間の交流促進のための事業を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	①特別支援教育支援員配置 小中学校に199人の特別支援教育支援員を配置した。 ②特別支援相談 就学に係る相談1,038回、就学支援委員会3回、専門家チームによる巡回相談154回及びケース検討会議(含連携協議会への参加)4回を実施した。 ③特別支援学級連絡協議会 特別支援学級設置校(小学校46校、中学校26校)が、連携・協力して行う各種交流事業を支援した。	①特別支援教育支援員配置 支援を必要とする子どもたちに対するより充実した教育活動が行われるよう、小中学校に支援員を配置する計画。 小中学校に209人を配置する計画。 ②特別支援相談 就学に係る相談、就学支援委員会3回、専門家チームによる巡回相談及びケース検討会議4回を実施する。 ③特別支援学級連絡協議会 特別支援学級設置校(小学校50校、中学校29校)が、連携・協力して行う各種交流事業を、支援する。	①特別支援教育支援員配置 小中学校に209人の特別支援教育支援員を配置した。 ②特別支援相談 就学に係る相談1,099回、就学支援委員会3回、専門家チームによる巡回相談169回及びケース検討会議(含連携協議会への参加)4回を実施した。 ③特別支援学級連絡協議会 特別支援学級設置校(小学校50校、中学校29校)が、連携・協力して行う各種交流事業を支援した。	160,300	A	継続	特別支援教育支援員の配置や相談活動の実施により、校内における支援の充実や適正な就学の実現につなげることができた。また、交流事業の実施により、特別支援学級在籍児童生徒の体験の幅を広げることができた。支援を必要とする児童生徒数の増加や、それぞれが必要とする支援の多様化に引続き対応する必要がある。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 本 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 施 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 策 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低:小学校低学年 小高:小学校高学年
 中:中学生 高:高校生
 大:大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
						乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画
135	3	③	子ども未来課	子育て支援センターの運営	地域の子育て支援機能の充実と子育ての不安感等の緩和を図るため、未就園児及びその保護者を対象に、子育てに関する相談、情報提供、親子の交流の場を提供し、様々なイベントを実施する。		●							●	市内19か所で実施。	市内21か所で実施。	市内21か所で実施。	276,361	A	継続	受託者等との連携強化による効果的な事業運営の推進に取り組む。
136	3	③	子ども家庭課	家庭児童相談室の事務総括	児童に関する様々な問題について、児童、家庭、地域住民からの相談に応じ、必要な助言を行う。	●	●	●	●					●	相談受付件数2,162件	児童に関する様々な問題について、児童、家庭、地域住民からの相談に応じ、必要な助言を行う。	相談受付件数1,993件	457	A	継続	当初の目標どおり事業を実施することができた。引き続き、各関係機関との緊密な連携により確実に事業を実施していく
137	3	③	子ども家庭課	児童虐待防止月間(11月)、オレンジリボンキャンペーン	「オレンジリボンキャンペーン」は、児童虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、児童虐待をなくすことを呼びかける市民運動で、児童虐待の現状を伝え、多くの方に児童虐待の問題に関心を持っていただき、虐待のない社会を築くことを目指す。									●	①②清水エスパルスとの協働事業(イベントの開催、啓発グッズの制作・配付等)の実施、オレンジリボンライトアップ、横断幕・懸垂幕の掲出、広報紙へ掲載、ラジオによる周知、県事業(オレンジリボンたすきリレー等)の共催実施。 ③コモンセンス・ペアレンティング研修を8会場で計12回実施	①清水エスパルスとの協働事業(啓発品の作成・配布、イベントの開催)の実施 ②児童虐待防止啓発活動の実施 ③コモンセンス・ペアレンティング研修の実施(出前講座)	①②清水エスパルスとの協働事業(イベントの開催、啓発グッズの制作・配付等)の実施、オレンジリボンライトアップ、横断幕・懸垂幕の掲出、広報紙へ掲載、ラジオによる周知、県事業(オレンジリボンたすきリレー等)の共催実施。 ③コモンセンス・ペアレンティング研修を8会場で計14回実施。	1,274	A	継続	計画どおり事業を実施することができた。今後も引き続き、より広く市民に児童虐待防止について周知していく。
138	3	③	児童生徒支援課	スクールソーシャルワーカー活用事業	教育と福祉の専門的な知識・技能を有し、過去に教育や福祉分野において活動経験の実績のある者をスクールソーシャルワーカーとして学校に派遣し、問題を抱える児童生徒の置かれた環境への働きかけや保護者や教職員等への支援を行う。		●	●						●	12名のスクールソーシャルワーカーを12小学校に配置した(週2時間、年間35週)。配置校以外の学校には、随時派遣対応できる体制とした(週11時間程度、年間35週)。支援対象の児童生徒数は1,023名、支援回数3,263回。	12名のスクールソーシャルワーカーを12小学校に配置。(週2時間、年間35週)配置校以外の学校には、随時派遣対応できる体制とする。(週11時間程度、年間35週)	学校生活上の諸問題の背景にある家庭環境や生活環境等の調整及び改善に努める。こども園、中学校卒業後においても、切れ目のない支援体制を確立し、貧困の連鎖を断ち切ることを目指した。 【令和元年度配置状況】 スクールソーシャルワーカー:12名 拠点校12校を中心に、派遣校を巡回。要請訪問も行った。 年間延べ支援回数:3,810回	20,413	A	継続	スクールソーシャルワーカーによる専門的な支援により、学校における相談機能等の向上が図られた。学校をプラットフォームとした貧困対策に対応することを目的とした、全ての学校でスクールソーシャルワーカーを活用できる体制のさらなる整備を進める。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 本 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 施 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 策 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低: 小学校低学年 小高: 小学校高学年
 中: 中学生 高: 高校生
 大: 大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組		
						乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	その他	保 護 者								総 合 計 画	
139	3	③	児童相談所	児童相談所・一時保護所の運営	児童虐待や子どもの発達の悩みなどに対する相談、判定、指導、保護が必要な児童への専門的な対応等を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	有	関係機関と連携し、組織的に迅速かつ的確な対応を行った。 ①相談件数 2,481件 ②一時保護件数 156件	個々の事案に対し、迅速かつ的確な対応をしていく	関係機関と連携し、組織的に迅速かつ的確な対応を行った。 ①相談対応件数 2,542件 ②一時保護件数 143件	51,346	A	継続	(評価) 虐待に関するものを含め、児童に関する様々な相談に対して適切に対応し、一時保護が必要となった児童に対しては、適切な状況で一時保護所入所をさせることができた。 (課題) 児童虐待相談対応件数は年々増加傾向である上に、複雑困難なケースもますます増加し、児童相談所を取り巻く環境が厳しさを増している。このような状況の中、相談対応担当職員、児童福祉司及び児童心理司については経験のみならず高度な専門性が求められている。 職員の資質向上及び専門性を確保するため、経験年数や職位に応じた研修実施並びに嘱託医、弁護士及びアドバイザー等の専門家活用により、職務対応に必要な知識及び経験の蓄積を図っていく。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3 「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本 ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 策 ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 策 ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 策 ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
 小低:小学校低学年 小高:小学校高学年
 中:中学生 高:高校生
 大:大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
						乳 幼児	小 低	小 高	中	高	大	その他	保 護者							
140	3	③	児童相談所	里親支援事業	里親及び里親になることを希望する者に対し、養育技術の向上、里親委託の促進及び里親の開拓を図るための研修、委託児童の養育及び里親自身に関する養育の相談等を実施し、里親への支援を行う。	●	●	●	●	●	●			里親認定業務および里親家庭支援センターへの業務委託により里親への効果的な支援を行った。 里親認定 5組10名 一日里親体験 37名参加 里親スキルアップ研修 18回 養育里親研修 16名 専門里親研修延 14名	里親家庭支援センター、里親会等と連携し、里親を支援することで里親委託の推進を図っていく	里親認定業務および里親家庭支援センターへの業務委託により里親への効果的な支援を行った。 里親認定 10組18名 一日里親体験 46名参加 里親スキルアップ研修 7回 養育里親研修 276名 専門里親研修延 16名	23,034	A	継続	(評価) 目標値である50%をほぼ達成しており、NPO法人静岡市里親家庭支援センターとの連携により、積極的な里親委託の推進、里親委託制度の周知及び里親の養育力向上を図ることが出来たため。 (課題) 施設入所等社会的養護が必要な児童の数に対して、まだまだ里親登録数は不足している。また、様々な要件に対応可能な里親を増やすためには、里親に対する市民の理解を深めることが必要となる。そのため、NPO法人静岡市里親家庭支援センターと連携し、家庭的な環境で養育できるよう、効果的な普及啓発による里親登録数の増加や計画的な研修の実施により里親への支援をし、里親養育の質の向上を図る。
141	3	④	子ども家庭課	児童扶養手当	父または母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立の促進に寄与するため、児童扶養手当を支給し、児童福祉の増進を図る。	●	●	●	●	●			30年度末受給者数 4,944人	R元年度受給者数(見込) 約5,000人	令和元年度末受給者数 4,139人	2,807,542	A	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知	
142	3	④	子ども家庭課	交通遺児等福祉手当	交通事故等の災害により、生計維持者を亡くした児童の生活の向上と福祉の増進を図るため、手当を支給する。	●	●	●	●				30年度支給対象延児童数 242人	R元年度支給対象延児童数 約360人	R元年度支給対象延児童数 212人	1,060	B	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知	
143	3	④	子ども家庭課	母子家庭等医療費助成費	母子家庭の生活と健康の保持を図るため助成を行う。	●	●	●	●				医療費支払件数(見込) 58,735件	医療費支払件数 約50,000件	医療費支払件数 57,324件	137,097	A	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知	
144	3	④	子ども家庭課	母子・父子・寡婦福祉資金貸付金	資金を貸付けることにより、母子家庭等に経済的自立の助成と生活意欲の助長を図り、併せてその扶養している児童の福祉を増進する。					●	●	●	貸付件数631件	貸付件数見込666件	貸付件数601件	355,518	A	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱3「困難を抱える子ども・若者とその家族への支援」

- 基本
策
- ①ニート(若年無業者)、ひきこもり、不登校等の困難を抱える子ども・若者とその家族を支援する
 - ②障がいのある子ども・若者とその家族を社会全体で支援する体制を充実する
 - ③子ども・若者の虐待、いじめ等を防止する
 - ④経済的困難を抱える家庭の子ども・若者を支援する

- (対象)
- 小低: 小学校低学年
 - 中: 中学生
 - 大: 大学・短大・専門学校生
 - 小高: 小学校高学年
 - 高: 高校生
 - その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ の 他	保 護 者							
145	3	④		子ども家庭課	ひとり親家庭生活支援事業費 (ホームフレンド)	母子家庭及び父子家庭の精神的支援や生活の安定を図るために、児童が気軽に相談できる大学生等(ホームフレンド)を派遣し、生活面の指導を行う。		●	●	●	●				派遣回数223回	派遣回数270回	派遣回数134回	1,547	A	継続	各区子育て支援課との連携 制度の周知
146	3	④		健康づくり推進課 葵区健康支援課 駿河区健康支援課 清水区健康支援課	保健福祉センターにおける相談事業	保健・福祉・医療に係る相談を受けるとともに、必要に応じて他の機関と連携を図り、支援を実施する。		●	●	●	●	●	●		来所相談 14,802件	来所相談(保健・医療・福祉に係る総合相談)の実施と必要に応じた継続フォローの実施	来所相談 12,580件	-	A	継続	(評価) 目標どおり事業を実施した。 (今後に向けた取組) 関係機関との連携及び役割を明確にし、効果的な対応を実施していく。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱4「非行防止と安全対策の推進」

- 基本
策
①子ども・若者を取り巻く環境の整備に努める
②子ども・若者の非行、問題行動の防止に取り組む
③情報モラルの向上と安全利用の推進を図る
④子ども・若者が安心して過ごせる安全なまちづくりを推進する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他								
147	4	①		建築総務課	違法広告物等撤去活動	電柱、街灯柱などに掲出される、はり紙、はり札、立看板などの違法広告物を除却することにより、青少年の健全育成を図る。	●	●	●	●	●	●	●	●	適正化旬間による違反広告物等の撤去活動は、台風24号接近のため、中止した	違反広告物等撤去活動	参加者 73人 除去個数 170個	11	A	継続	毎年撤去活動を行った結果、違反広告物が減少しているため、違反広告物撤去範囲拡大を検討中。今後も拡大範囲を検討する。
148	4 4 4 4	① ② ③ ④		青少年育成課	青少年育成センターの運営	非行防止及び健全育成に関係する機関、団体の拠点として、静岡市青少年育成センターを運営し、補導活動、環境浄化活動などを実施する。	●	●	●	●	●	●	●	●	街頭補導:1,346回 社会環境調査:550店舗	街頭補導1,300回 社会環境調査:550店舗	街頭補導1,194回 社会環境調査:540店舗	6,602	A	継続	コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらの補導活動の実施。各店舗への県条例の周知徹底を図る。
149	4	②		児童生徒支援課	健康教育の充実	児童・生徒の薬物乱用や性の逸脱行動、生活習慣病の兆候、様々な悩みによる心因性の症状など、児童・生徒の心身の健康に関する問題に対応するため、養護教諭などを中心とする健康相談の一層の充実や地域社会と一体となった環境整備、学校における指導強化を図る。	●	●	●				●	①健康教育推進のコーディネーター的役割を果たす養護教諭等を対象に研修会や公開事業を開催した。 ②産婦人科医による性教育出前講座を9校の中学校3年生を対象に実施した。	①子どもたちが心身の健康課題に対して、自ら解決し、健康生活を実践していく力を養うために、各校の保健教育や保健活動を支援する。 ②中学生に対する産婦人科医による性教育講座を実施する。	①健康教育推進のコーディネーター的役割を果たす養護教諭等を対象に研修会を開催した。 ②産婦人科医による性教育出前講座を4校の中学校3年生を対象に実施した。	-	A	継続	研修内容を検討し、今後も継続していく。	
150	4	②		青少年育成課	青少年健全育成団体の活動支援	健全育成活動費等への補助金を交付する。 活動内容:青少年健全育成大会、環境浄化活動、あいさつ運動、講演会の開催、広報紙の発行等 交付団体数:48団体	●	●	●	●			●	健全育成大会参加者 延人数:14,922人	健全育成大会参加者 延人数:12,000人	健全育成大会参加者 延人数:13,500人	12,871	A	継続	健全育成大会における参加者アンケート結果を反映させ、より満足度の高い内容にする。	
151	4	②		青少年育成課	非行防止等啓発事業	街頭キャンペーンなどの広報活動を通して、青少年の非行防止、健全育成に関する市民意識の高揚を図る。	●	●	●	●			●	街頭キャンペーン2回 中学校新入生説明会での 広報1回 広報啓発用チラシの作成・配布3回	街頭キャンペーン2回 中学校新入生説明会での 広報1回 広報啓発用チラシの作成・配布3回	街頭キャンペーン2回 中学校新入生説明会での 広報1回 広報啓発用チラシの作成・配布3回	454	A	継続	啓発効果が高い時間帯を利用して引き続き、キャンペーンを実施したい。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱4「非行防止と安全対策の推進」

- 基本
策
①子ども・若者を取り巻く環境の整備に努める
②子ども・若者の非行、問題行動の防止に取り組む
③情報モラルの向上と安全利用の推進を図る
④子ども・若者が安心して過ごせる安全なまちづくりを推進する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他									保護者
152	4	②		健康づくり推進課	未成年者喫煙防止事業「小・中学生向け喫煙防止教室」	喫煙防止の取組を推進するため、小・中学生がタバコのしくみや健康被害等について学び、さらに家族や地域社会へ広げ、受動喫煙の防止を図るよう、希望する市内小中学校児童生徒対象に講座を開催する。		●	●	●				●	有	小・中学校実施校77校 参加者数8,517人	小・中学校75校実施	小・中学校75校実施 参加者数7,760人	378	A	継続	希望校へ計画どおり実施した。参加した児童生徒のアンケートから、喫煙や受動喫煙による健康被害の知識が得られたこと、受講後に子どもから喫煙している家族に禁煙を勧めた等、正しいタバコの知識の普及に繋がっていることが確認できた。学校からの教室内容の要望にも対応しながら実施できた。今後も学校の要望に対応できるよう教室を実施し、事業のPRを継続して行っていく。
153	4	②		福祉総務課	静岡市保護司会連絡協議会補助金	静岡市保護司会連絡協議会に対し、補助金を交付する。 ※保護司会における青少年関連事業 ・静岡市青少年問題協議会への参加 ・静岡市青少年育成センター主催の少年補導への参加 ・各中学校区で実施する健全育成大会への参画 など		●	●	●	●	●	●			静岡市保護司会連絡協議会に対し、補助金を交付した。	静岡市保護司会連絡協議会への参加 ・静岡市青少年問題協議会への参加 ・静岡市青少年育成センター主催の少年補導への参加 ・各中学校区で実施する健全育成大会への参画 など	静岡市保護司会連絡協議会に対し、補助金を交付した。	4230	A	継続	保護司会が目標どおり啓発事業の実施回数を達成することができた。今後も保護司会と連携して、社会を明るくする運動を効果的にPRできるよう取り組んでいく。
154	4	①		児童生徒支援課	薬物乱用防止教室(薬学講座)	喫煙、飲酒、薬物(覚せい剤、麻薬等)の乱用防止に努めるため、学校薬剤師等を講師として各学校で乱用防止教室を開く。		●	●							全小・中学校において、学校薬剤師や警察署職員、専門家を講師として招き、薬物乱用防止教室を開催した。	喫煙、飲酒、薬物(覚せい剤、麻薬等)の乱用防止に努めるため、学校薬剤師等を講師として各学校で薬物乱用防止教室を開催する。	全小・中学校において、学校薬剤師や警察署職員、専門家を講師として招き、薬物乱用防止教室を開催した。	-	A	継続	-

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱4「非行防止と安全対策の推進」

- 基本
策
①子ども・若者を取り巻く環境の整備に努める
②子ども・若者の非行、問題行動の防止に取り組む
③情報モラルの向上と安全利用の推進を図る
④子ども・若者が安心して過ごせる安全なまちづくりを推進する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ 他									保 護 者
155	4	③		学校教育課	情報倫理教育の推進	ITの飛躍的発展によるネット社会の広がりの中で、情報の匿名性に付随する様々な問題に対応するため、情報やコミュニケーションの本質的意味を教え、その中で責任ある行動を取れる資質を育む情報倫理教育を推進する。		●	●									0	A	継続	インターネット上起きているトラブルを自分ごととして捉えて学ぶ機会をもつことができた。今後、GiGAスクール構想の推進によりICT機器の使用頻度は更に高まると考える。一層の拡充を目指す必要がある。	
157	4	③		教育センター	情報技術活用研修	教職員を対象に情報技術活用に関する研修を実施する。		●	●										100	A	継続	情報活用能力が言語活動と並び学習の基盤となる資質能力と学習指導要領で位置付けられた。参加した研修員は意欲を持って研修に取り組むことができた。今後一層情報活用能力については育成していく場面を考えて教育活動に取り組んでいくことが予想されるため、情勢を見て研修内容を考えていきたい。
158	4	④		生活安心安全課	青色回転灯車両巡回活動	パトロール車として認定を受けた市公用車を使用し、業務終了後の帰庁時などに学校周辺や通学路などの防犯パトロールを実施する。		●	●	●	●	●	●	●	有	青パト実施回数年間387回	青パト実施回数年間400回	青パト実施回数年間679回	1605	A	継続	令和元年度は、公用車の青パト化を進め、200台以上に増台した。これを踏まえ、青パトに係る指標のあり方を再検討する必要がある。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱4「非行防止と安全対策の推進」

- 基本
策
①子ども・若者を取り巻く環境の整備に努める
②子ども・若者の非行、問題行動の防止に取り組む
③情報モラルの向上と安全利用の推進を図る
④子ども・若者が安心して過ごせる安全なまちづくりを推進する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組			
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他									保護者		
159	4	④		生活安心安全課	地域防犯パトロールの推進	地域住民による巡回活動、青色回転灯装備車両によるパトロールを推進する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	有	地区安全会議立ち上げ1団体及び14団体の活動を支援した。	地区安全会議への補助金交付15件	地区安全会議への補助金交付8件	691	B	継続	地区安全会議の未設立地区における設立の促進、活動支援方法の検討	
160	4	④		生活安心安全課	交通安全運動の推進	自治会・町内会等と協力し、地域ぐるみの交通安全運動を推進する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	有	運動を年4回実施 街頭広報を各区で実施	運動を年4回実施 街頭広報を各区で実施	運動を年4回実施 街頭広報を各区で実施	2,534の一部	A	継続	令和元年度は例年どおりの活動内容で実施したが、令和2年度からは新型コロナウイルスの影響を踏まえた活動内容(規模縮小等)について検討が必要である。	
164	4	④		児童生徒支援課	「子どもを守る家」、「子ども110番の家」等の設置	不審者の被害や身の危険を感じたりしたときのひなん所としてお願いするよう、ステッカーを作成し、希望のあった学校区等に配布する。	●	●	●				●				7校 総計408枚配布	-	9校1事業所 計331枚配布	-	A	継続	ステッカーを掲示することで地域に子どもひなん所の周知が図られ、地域防犯力の向上に役立っている。今後も本事業を継続していく。	
165	4	④		児童生徒支援課	不審者情報等のメール配信	警察署と連携して、不審者情報、防犯情報等を保護者や地域住民に対し、携帯電話を利用し、迅速に情報の提供を行う。										●	実績なし	-	-	-	-	-	-	-
225	4	②		健康づくり推進課	未成年者喫煙防止事業 「喫煙防止教室(高校生向け)」	高校生がタバコに関する正しい知識や最新情報、喫煙や受動喫煙の健康被害等について学び、将来、喫煙者とならないような教育を、希望する市内高校生対象に開催する。											-	高校4校実施	高校4校実施 参加者数2,168人	-	A	継続	希望校へ計画どおり実施した。 令和元年度より開始した事業で、今後、他の高校にも事業を拡大していくため、市内全ての高校に望まない受動喫煙のリーフレットを配布し、周知を図る。	
再	2 4 4	④ ① ③	106	生活安心安全課	若者のための消費生活啓発講座(ヤングライフセミナー)	若年者を対象に、職員が高校、専門学校、大学等へ出向き、「賢い消費者になるために」と題して、資料・ビデオ上映・クイズなどにより悪質商法に関する情報や生活設計に関する基礎知識を提供する。											8回実施 参加者 2,673人	10回実施	5回実施 参加者 579人	258	B	継続	成年年齢引下げを踏まえ、開催校の拡大	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱5 「居場所づくりと社会参加の推進」

- 基本
策 ①子ども・若者が地域に主体的に関わる機会を提供する
②子ども・若者の自立と社会参加を支援する
③子ども・若者の主体性を伸ばすとともに、子ども・若者リーダーを養成する
④子ども・若者の居場所づくりを支える人材の育成を充実する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								総合計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元 決算額(千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								
166	5	①		環境創造課	河川環境アドプトプログラム事業	環境美化ボランティア活動により、安倍川・葦科川・興津川のゴミを取り除き、美しい河川を創出するとともに、川を愛する環境教育の意識付けを図る。		●	●	●	●	●	●	●	有	縁組区間:16 参加団体:41 参加者:1,235人	縁組区間:16 参加団体:45 参加者:1,250人	縁組区間:16 参加団体:43 参加者:1,304人	244	A	継続	活動団体が減少しているため、各種媒体を利用した積極的な周知を展開し、参加団体数の増加につなげたい。
167	5	①		高齢者福祉課	高齢者社会参加促進の支援	まちづくり推進事業の一環として、清水区の19団体(蒲原・由比地区を除く)が主体となり、自治会内の高齢者を始め児童・生徒・一般へ呼びかけ、どんど焼き、グラウンドゴルフ大会、輪投げ大会、地区祭り等の事業を実施することにより、高齢者の社会参加を促すと共に世代間交流を行う。		●	●	●	●	●	●		18団体	継続実施 地域活動の参加を促進することを目的に、三世交代の事業を実施。 実施団体:19団体	18団体	1,291	A	継続	引き続き、事業実施を行い、世代間の交流や各種行事を通し、高齢者の社会参加の促進、さらには健康の保持と福祉の増進を支援していく。	
168	5 1	① ①		危機管理課	地域防災訓練への参加促進	市内の小中高校に対し地域防災訓練への参加を促すとともに、関係団体に対し青少年の訓練参加への協力を依頼する。 また、自主防災組織の実施する訓練計画を市HPに掲載し、青少年の地域防災訓練への参加促進のための情報提供を行う。		●	●	●	●	●	●		参加:164,053人 (年間参加者数) 内 小学生:12,147人 中学生:12,861人 高校生:6,824人	市政出前講座実施時に、市内の小中高校に対し地域防災訓練への参加を促すとともに、関係団体に対し青少年の訓練参加への協力を依頼する。 また、自主防災組織の実施する訓練計画を市HPに掲載し、青少年の地域防災訓練への参加促進のための情報提供を行う。	参加:163,173人 (年間参加者数) 内 小学生:120,92人 中学生:120,13人 高校生:6,419人	(経常) 1,238の一部	A	継続	児童・生徒に地域防災訓練へ参加していただくことで、自助・共助の重要性を自ら体験し命の大切さや思いやりを学ぶことに役立っていることから、今後も継続して訓練を実施し、学校等へ生徒の参加依頼をする。	
再	2 5	② ①	92	生涯学習推進課	生涯学習施設における講座	子どもたちに対して、多様な体験活動等を通して、健やかな成長を促し、豊かな人間性を育むことを目的とした各種講座を実施する。		●	●	●					37施設中33施設において、子どもを対象とした各種講座を実施。	子どもを対象とした各種講座の実施設数 37施設 中32施設	子どもを対象とした各種講座の実施設数 37施設 中33施設	指定管理料の一部 及び26千円(梅ヶ島交流館)	A	継続	子どもたちに対して、多様な体験、学習活動の機会を提供することができた。今後も、新型コロナウイルス感染症防止策を徹底したうえで講座を企画していく	
169	5 5 1	① ② ②		青少年育成課	成人の日行事	新成人を対象に記念式典を開催し、成人としての自覚を促す機会を提供する。								●	実施 出席者:3,253人 参加率:48.51%	実施 出席者:3,200人 参加率:48.0%	実施 出席者:3,356人 参加率:51.4%	4,642	A	継続	さらなる参加率の増に向け、参加者のニーズに合った魅力的なイベントの企画と効果的な周知・参加呼びかけに引き続き努める。	
170	5	②		学校教育課	子ども・若者のボランティア活動の充実	ボランティア活動は、活動を通して自分が必要とされている存在であることを実感させ、喜びや生きがいを与えると同時に、様々な社会問題への問題意識を深め、社会貢献への気持ちを育む効果があることから、地域社会や民間団体等とも協力し、ボランティア活動を推進する。			●					有	各学校は、地域住民や外部諸団体と連携して、今年度はSDGs意識して環境整備(清掃活動・資源回収)や福祉活動(施設慰問・募金活動)などの数々のボランティア活動に取組んだ。	各学校の計画及び地域や外部諸団体からの要請等に応じて、ボランティア活動に取り組むことを奨励する。	各学校は、地域住民や外部諸団体と連携して、今年度はSDGs意識して環境整備(清掃活動・資源回収)や福祉活動(施設慰問・募金活動)などの数々のボランティア活動に取組んだ。	-	A	継続	-	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱5「居場所づくりと社会参加の推進」

- 基本
策
①子ども・若者が地域に主体的に関わる機会を提供する
②子ども・若者の自立と社会参加を支援する
③子ども・若者の主体性を伸ばすとともに、子ども・若者リーダーを養成する
④子ども・若者の居場所づくりを支える人材の育成を充実する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元 決算 額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ の 他								
171	5	②		学校教育課 (学校サポート 連絡協議会)	学生スクールボランティア	学生スクールボランティアが教科指導や総合学習、特別支援教育、放課後の学習相談・あそび、日本語指導などにアシスタントとして参加することで、市立幼稚園、小・中学校の教育課程実施の充実を支援するとともに、教員志望者の開拓及び資質・能力の向上につなげる。								・4月当初に各大学で行われる学生オリエンテーションに合わせて、ボランティア求人票を配布した。 ・求人を随時受付し、ホームページ上で公開した。 ・静岡大学、常葉大学の外国人児童等支援団体と連携し、児童生徒の支援にあたった。のべ112名の学生が45校で支援活動を行った。	・4月当初に各大学で行われる学生オリエンテーションに合わせて、ボランティア求人票を配布する。 ・求人を随時受付し、ホームページ上で公開する。 ・静岡大学、常葉大学の外国人児童等支援団体と連携し、児童生徒の日本語習得の支援にあたる。	・4月当初に各大学で行われる学生オリエンテーションに合わせて、ボランティア求人票を配布した。 ・求人を随時受付し、ホームページ上で公開した。 ・静岡大学の外国人児童等支援団体と連携し、児童生徒の支援にあたった。のべ4名の学生が2校で支援活動を行った。	-	B	継続	随時ボランティアを募集しているが、大学生がボランティアに充てる時間が確保できにくくなっている。	
172	5	②		青少年育成課	わかもののみち推進事業	若者の社会参画を促すことで、自己有用感及び地域への愛着を高める。								高校生のシチズンシップを醸成する「高校生まちづくりスクール」を7回開催した。	高校生のシチズンシップを醸成する「高校生まちづくりスクール」を6回開催。	高校生のシチズンシップを醸成する「高校生まちづくりスクール」を6回開催した。	715	A	継続	高校生にとって参加しやすい開催期間の設定や課題解決に向けたサポートの強化など、より参加者のニーズに応じた事業内容とするよう努める。	
174	5	②		日本平動物園	ガイドボランティア	活動内容:ガイドボランティアとして、園内のスポットガイド及びふれあいコーナーでの補助等を行う。 活動時間:土曜・日曜・祝日(通年) 活動条件:18歳以下は保護者の許可、小学生以下は保護者の同伴が必要							1人あたり年間活動回数18.6回	1人あたり年間10回以上活動する。	1人あたりの活動回数12回	-	A	継続	活動回数は目標を超えることが出来たが、ボランティアの高齢化による登録人数の減少や、コロナウイルスの影響による令和2年度の活動回数の減少が課題となっている。		
再 5	2 5	② ②	90	文化振興課	静岡市こどもミュージカル補助金	静岡市こどもミュージカル実行委員会に対し、補助金を交付する。 (静岡市こどもミュージカルは、公募によって集められた子どもたちが主役のミュージカル公演であり、市民により組織された実行委員会が、ミュージカルの創作を通じて子どもたちに創造する喜びを知ってもらうことを目的に、2年に1回開催する。)							8月25日、26日各2回公演を実施。2,258名の来場者があった。	令和2年度の公演に向け出演者オーディションの実施、ミュージカルスクールの入校式を行う。	・出演者オーディション実施 11月16日(土)、17日(日) 応募者数:70名 ・ミュージカルスクール入校式実施 12月8日(日)	200	A	継続	集客につながるよう事業のターゲットを明確にし、それを確実に取り込むための事業内容の検討及び積極的な広報活動を促す。		

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱5「居場所づくりと社会参加の推進」

- 基本
策
①子ども・若者が地域に主体的に関わる機会を提供する
②子ども・若者の自立と社会参加を支援する
③子ども・若者の主体性を伸ばすとともに、子ども・若者リーダーを養成する
④子ども・若者の居場所づくりを支える人材の育成を充実する

- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合計 画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元 決算 額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ の 他								
175	5	③		青少年育成課	青少年研修センターの運営	教育委員会の承認を受けた団体に対し、次の施設について無料で貸し出しを行う。 ・青少年研修センター(市中央体育館内) 利用者の範囲:市内に居住、若しくは市内の事業所に勤務する者が15人以上で、教養の向上を図る目的で結成した団体									承認団体数 7団体	承認団体数 5団体	承認団体数 5団体	135	A	継続	学校や学生などの課外活動の場として利活用を促進するため、施設の周知・広報を行い、利用者数増加への取り組みに努める。
176	5	③		青少年育成課	わたしの主張静岡市大会開催事業	市内各中学校より主張作文を募集し、書類選考の後に各区代表9名による口頭発表会を実施。口頭発表会での審査により、代表者2名を県大会に推薦する。									市内中学校17校より648作品の応募があり、9作品を選考し、「わたしの主張2018」静岡市大会を実施した。9名の生徒による主張が行われ、審査の結果、2名の県大会出場者が決定した。	市内各中学校より主張作文を募集し、書類選考を通じた9名による口頭発表会(公開審査会)を清水庁舎ふれあいホールにて実施する。上位2名の代表者を県大会に推薦する。	市内中学校19校より1,447作品の応募があり、9作品を選考し、「わたしの主張2019」静岡市大会を実施した。9名の生徒による主張が行われ、審査の結果、2名の県大会出場者が決定した。	30	A	継続	子どもたちの主張をより多くの方に聴いていただけるよう、引き続き効果的な広報・周知活動の推進に努める。
177	5 5	③ ④		青少年育成課	市青年団協議会事業補助金	静岡市青年団連絡協議会の運営費及び事業費を補助する。 活動内容:青年スポーツ交流会、ボランティア活動等								有	補助金の交付等による活動支援	補助金の交付等による活動支援	補助金の交付等による活動支援 活動延回数 40回 延参加者数 184人	109	A	継続	参加者のニーズに応じた企画内容の検討や、周知・PRについて引き続き支援していく。
178	5 5	③ ④		青少年育成課	少年団体(ガールスカウト)運営費補助金	ガールスカウト静岡市協議会、ガールスカウト静岡第43団(蒲原地区)及びガールスカウト第108団(由比地区)の運営費及び事業費を補助する。 活動内容:指導者研修会、キャンプ等								有	補助金の交付等による活動支援 活動延回数 184回 延参加者数 2,835人	補助金の交付等による活動支援	補助金の交付等による活動支援 活動延回数 272回 延参加者数 2,283人	565	A	継続	団体の持続・発展的な活動に向け、団体活動全体の周知・PRを市のHP等で行うなど、引き続き支援に努める。
179	5 5	③ ④		青少年育成課	少年団体(ボーイスカウト)運営費補助金	ボーイスカウト静岡県連盟静岡地区及びボーイスカウト静岡県連盟清水地区の運営費及び事業費を補助する。 活動内容:指導者講習会、救急法講習会、奉仕活動等								有	補助金の交付等による活動支援 活動延回数 83回 延参加者数 3,106人	補助金の交付等による活動支援	補助金の交付等による活動支援 活動延回数 68回 延参加者数 2,507人	549	A	継続	団体の持続・発展的な活動に向け、団体活動全体の周知・PRを市のHP等で行うなど、引き続き支援に努める。
180	5 5	③ ④		青少年育成課	少年団体(子ども会)運営費補助金	静岡市子ども会連合会の運営費及び事業費を補助する。 活動内容:持久走大会、球技大会、指導者研修会等								有	補助金の交付等による活動支援 活動延回数 175回 延参加者数 5,115人	補助金の交付等による活動支援	補助金の交付等による活動支援 活動延回数 151回 延参加者数 4,722人	5,594	A	継続	団体の持続・発展的な活動に向け、団体活動全体の周知・PRを市のHP等で行うなど、引き続き支援に努める。
183	5	④		青少年育成課	青少年育成員・指導者研修会	青少年の指導方法や事業の企画運営等に関する研修会を開催する。 対象:青少年育成に関わる指導者等									1回実施	1回実施	1回実施	-	A	継続	継続した事業の開催ができたものの、さらに参加者を増やすため、適切なテーマ設定と広報方法の検討が必要である。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本
策
①個々の課題に応じた相談体制の充実
②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む
③家庭教育の支援を充実する
④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する
- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	其 他								
184	6	①		児童生徒支援課	スクールカウンセリング事業	いじめや不登校、問題行動等、児童・生徒の心の問題に対応するため、スクールカウンセラーを小・中・高等学校に、教育相談員を中学校に配置し、学校における組織的相談機能の向上を目指す。	●	●	●	●	●	●	●	○スクールカウンセラーの配置 ・小学校69校:年35週、週3時間。 ・中学校37校:学校規模に応じて年35週、週6～8時間。 ・その他の小、中学校:要請に応じて派遣する。 ・高等学校2校に年23週、週4時間 ○教育相談員の配置 ・不登校や別室登校生徒数に応じて、中学校(36校)に週5～20時間の傾斜配置する。	○スクールカウンセラーの配置 ・小学校69校:年35週、週3時間。 ・中学校37校:学校規模に応じて年35週、週6～8時間。 ・その他の小、中学校:要請に応じて派遣する。 ・高等学校2校に年23週、週4時間 ○教育相談員の配置 ・不登校や別室登校生徒数に応じて、中学校(36校)に週5～20時間の傾斜配置する。	○スクールカウンセラーの配置 ・小学校68校:年35週、週3時間。 ・中学校37校:学校規模に応じて年35週、週6～8時間。 ・その他の小、中学校:要請に応じて派遣する。 ・高等学校2校に年23週、週4時間 ○教育相談員の配置 ・不登校や別室登校生徒数に応じて、中学校(36校)に週5～20時間の傾斜配置する。	82,398	A	継続	スクールカウンセラーの専門的な支援やカウンセラーと連携する相談員の支援により、学校における相談機能等の向上が図られた。通知等で児童・生徒や各家庭に事業について周知する。研修や校内連絡会等を通して、教職員に効果的な活用方法を周知する。	
185	6	①		子ども家庭課	要保護児童対策地域協議会	児童福祉に関する団体等で構成する協議会を結成し、情報交換等を通し、要保護児童の早期発見と適切な保護の実現に努める。	●	●	●	●	●	●	●	①代表者会議(年1回) ②実務者会議(定例会:1回/月 進行管理会議:1回/4ヶ月) ③個別ケース検討会議(22回)	①代表者会議(年1～2回) ②実務者会議(定例会:1回/月 進行管理会議:1回/4ヶ月) ③個別ケース検討会議(随時)	①代表者会議1回 ②実務者会議45回(定例会:各区1回/月 進行管理会議:各区1回/4ヶ月) ③個別ケース検討会議(33回)	90	A	継続	多機関での情報共有と連携により、要保護児童等に対する適切な支援や保護を実施できている。今後は、2022年度までに設置が義務付けられている、子ども家庭総合支援拠点の役割の整理が必要となる。	
186	6	①		生活安心安全課	犯罪被害者等支援総合案内窓口	犯罪被害者等支援のための総合案内窓口にて、相談者への適切な対応及び情報提供に努めるほか、総合窓口を周知します。	●	●	●	●	●	●	●	1回実施	支援団体と協働で、総合窓口周知のための街頭広報を1回実施する。	2回実施	532の一部	A	継続	支援団体と協働で、総合窓口周知のための街頭広報を1回実施する。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本
策
①個々の課題に応じた相談体制の充実
②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む
③家庭教育の支援を充実する
④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する
- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再 掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評 価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	そ の 他								
再 3 6	①	12 1		青少年育成課	子ども若者相談事業	【面接相談】 ○相談受付:(土日祝・年末年始を除く)8時30分～17時15分 相談対象者:39歳までの子ども・若者及びその保護者・関係者 【電話相談】 ○こころのホットライン 相談受付:(土日祝・年末年始を除く)毎日9時～17時 相談対象者:20才までの青少年及びその保護者・関係者 ○24時間いじめ電話相談 相談対象者:小中学生及びその保護者・関係者	●	●	●	●	●	●	●	●	①面接相談 480人 7,010回 ②こころのホットライン 受付件数 400件 ③24時間いじめ電話相談 相談受付 950件	①面接相談 相談受付:平日8時30分～17時15分 ②こころのホットライン 相談受付:平日9時～17時 ③24時間いじめ電話相談 相談受付:毎日24時間	①面接相談 489人 7,151回 ②こころのホットライン 受付件数 345件 ③24時間いじめ電話相談 相談受付 562件	10,845	A	継続	相談内容が多様化・複雑化してきている中で、より関係機関との連携の必要性を感じるため、連携の在り方を検討していく。
再 1 6	① ④	12		救急課	応急手当普及啓発活動の促進	学校教育での救命講習受講推進を図るため、毎年度、市内全小中学校(小学5年生、中学2年生)に呼び掛けて実施します。市域において、将来的に大多数の市民が受講済の環境を目指します。救命講習を通し、命の大切さを学ぶ環境を醸成します。	●	●						市内公立小学校 5,870人 市内公立中学校 5,335人 合計 11,205人 市内全小中学校で授業の一環として救命講習を実施 市内私立小中学校に救命講習受講推進	市内全小中学校の小学5年生、中学2年生に対し、学校教育における救命講習を実施 市内私立小中学校に救命講習受講推進	市内小中学校で授業の一環として救命講習を実施 市内公立小学校 5,473人 市内公立中学校 4,713人 合計 10,186人 市内私立小中学校 168人	8,465千円の一部	A	継続	・市内市立中学校にも協力を要請し、一部の学校で講習が実現したので、引き続き実施を推進していく。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた講習方法を検討する必要がある。	
187 6	②			学校教育課	次世代育成プロジェクト事業	民間教育力の活用や本市の第一線で活躍する様々な専門家を学校に派遣することにより児童生徒の学習の充実を図る。 キャリア教育の推進のため、連続3日間以上の職場体験学習を全中学校で実施する。	●	●	●	●			有	・各学校の教育計画に基づき、各事業を実施した。 ・民間教育力活用事業の実施件数は、522件。 学校の教育活動の充実のため、効果的に支援することができた。	・各小中学校ごとキャリア教育年間指導計画に基づき各事業を実施する。 ・民間教育力活用事業の実施と中学校において職場体験学習を実施する。	・各学校の教育計画に基づき、各事業を実施した。 ・民間教育力活用事業の実施件数は、532件。 ・市内の全中学校で連続3日間以上の職場体験学習を実施した。	2,954	A	継続	学校の教育活動の充実のため、効果的に支援することができた。 活用が積極的な学校と比較的消極的な学校と偏りがある。継続的に人材バンク「スペシャリスト」を作成の上、学校へ提供し、より活用しやすい環境を整備する。	
188 6	②			子ども未来課	ファミリー・サポート・センター事業	育児の援助活動(保育所・幼稚園・小学校の終了時刻後における園児・児童の預かり等)を行いたい方と受けたい方からなる会員組織を運営し、会員同士の育児援助活動を推進する。	●	●	●				有	会員数5,806人 利用件数12,394件 (病児・病後児預かり含む)	ファミリー・サポート・センター事業(ファミリー・サポート及び緊急サポート)の実施	会員数6,070人 利用件数11,950件 (病児・病後児預かり含む)	29,201	A	継続	利用件数の増加に向け、まかせて会員の確保方策を受託者と連携を図る。	
189 6	②			青少年育成課	子ども・若者支援地域協議会の運営	ニート、ひきこもり、不登校など社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者を支援する協議会を運営する。	●	●	●	●	●	●	●	代表者会議1回 実務者会議4回	代表者会議1回 実務者会議4回	代表者会議1回 実務者会議4回	8	A	継続	関係機関に赴きお互いを 知ること、横のつながりを 強化できた。引き続き広い 視野を持って連携を深めたい。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本
策
①個々の課題に応じた相談体制の充実
②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む
③家庭教育の支援を充実する
④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する
- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組		
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画	
190	6	②		教育総務課	学校応援団推進事業	ボランティアによる地域社会の協力のもと、学校を応援する体制を整え、子どもたちの人間性や社会性を育て支援することにより、健やかな育成と家庭や地域の教育力を高めることを目的とする。(H20新規、国庫補助事業)		●	●	●				●	●	有	市内全小中学校129校で実施した。	市内全小中学校129校で実施予定	市内全小中学校129校で実施した。	10,753	A	継続	ボランティア参加者延べ人数の維持や活動の種類・幅の広がりが確認でき、教職員と地域住民等の連携意識が高まっている。ボランティア活動の中心的な役割を担う人材の発掘・育成が必要である。今後は、放課後子ども教室推進事業と一本化する。
191	6	②		産業政策課	こどもクリエイティブタウン	こどもたちを対象に仕事体験やものづくり体験を通じて、次世代を担う創造力をもつ健全な人材を育成するとともに、社会や経済の仕組みの学習および地域産業の理解を促進するための施設を運営する	●	●	●	●	●				有	利用者数 100,000人	-	・利用者数 106,370人/年	87,005の一部	A	継続	講座参加者のアンケート結果をもとに、講座の内容の充実を図る。またコロナの影響により、通常通りの施設運営が困難であるため、今後も利用制限等の感染防止対策をした上で、事業を実施する必要がある。	
再	2	④	91	商業労政課	若者の地元就職・UIJターン就職促進事業(大学生向け市内で働く魅力発見セミナー)	市内企業への就職促進策の一環として、学生に対し、市内企業の認知度向上を図るとともに、魅力ある就職先があることを伝え、市内企業への就職を促すため、市内企業の経営者等と学生の意見・情報交換会を開催する。									有	開催10回 参加学生の市内企業への就職関心度 86.9%	開催5回 参加学生の市内企業への就職関心度90%以上	開催10回 参加学生の市内企業への就職関心度 97%	14,162 (若者の地元就職・UIJターン就職促進事業の一部)	A	継続	キャリア教育として必要であることと、参加学生を確保するため、授業の一環として実施できるよう大学との連携を深めていく。	
再	1	③	67	文化振興課	伝統文化ワークショップ事業	我が国の伝統文化への理解と関心を深める機会を提供するため、親子を対象に伝統文化に触れるワークショップを開催する。 (実施内容) 茶道(抹茶、煎茶)、落語、神楽、祭囃子等	●	●								8月4日(土)、5日(日) 1日2回(計4回) 静岡市民文化会館 実施内容:茶道(抹茶、煎茶)、木遣 参加者数:190人	8月3日(土)、4日(日) 1日2回(計4回) 静岡市民文化会館 実施内容:茶道(抹茶、煎茶)、琴	令和2年8月3日(土)、4日(日) 1日2回(計4回) 静岡市民文化会館 実施内容:茶道(抹茶、煎茶)、琴 参加者数:218人	26,579の一部	A	継続	定員を大幅に上回る申込のある事業であるため、今後も多岐に渡る文化メニューを提供出来るよう企画内容を検討していく。	
192	6	③		児童生徒支援課	肥満傾向の子どもと親の健康教室	栄養士による個別栄養指導、医師による医療相談を通し、食事の習慣や生活習慣などに気を付け、肥満を防止する。肥満を防ぐための運動を実際に行うことにより、肥満防止に向けての意識を高める。	●	●	●					●		第1回健康教室参加者数52組参加。 第2回健康教室参加者数45組参加。	肥満傾向の児童生徒を中心に希望者をつのり、栄養士による栄養指導、医師による医療相談、指導主事による運動指導を行う。 7月30日、31日実施予定	第1回健康教室参加者数61組参加。 第2回健康教室参加者数26組参加。	-	A	継続	開催時期等の検討をしていく	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6 「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本
策
①個々の課題に応じた相談体制の充実
②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む
③家庭教育の支援を充実する
④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する
- (対象)
小低:小学校低学年
中:中学生
大:大学・短大・専門学校生
小高:小学校高学年
高:高校生
その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	保 護 者	其 他							
193	6	③		子ども家庭課	養育支援訪問事業	養育支援が特に必要であると判断した家庭に対して、専門的資格を有するなどの養育支援訪問員がその家庭を訪問し、養育に関する指導、助言等を行うことにより、適切な養育の実施を確保する。	●	●	●	●	●	●	●	19世帯に支援を実施	支援が必要な世帯に養育支援訪問を実施	13世帯に支援を実施	714	A	継続	他の類似事業とのすみ分けを明確にし、関係機関の理解を深めることが必要	
194	6	③		子ども未来課	母親クラブの育成	家庭児童の健全育成を図るため、地域の母親が児童館等を拠点として、活動する連帯組織で、自己研修、親子交流活動、事故防止のための奉仕活動を実施する。								市内5の母親クラブの運営経費を助成	市内4の母親クラブの運営経費を助成	市内4の母親クラブの運営経費を助成	612	A	継続	クラブの存続に向けて助言、活動の周知に努める。	
195	6	③		子ども未来課	児童遊び場の整備	地域における遊び場確保の促進を図るため、遊び場の設置に対して助成する。								年間修繕等補助件数10件	年間の修繕等補助件数10件	年間の修繕等補助件数3件	300	C	継続	自治会(町内会)に対し、定期的に点検を実施し、その結果に基づき計画的に修繕等の実施を促す。	
196	6	③		子ども未来課	子育て支援総合情報提供事業	子育てに関する情報を様々な手段による提供を図り、市民が得たい情報を的確にわかりやすく提供するため、『静岡市子育て応援総合ホームページ「ちゃむ」』を管理運営する。								静岡市子育て応援総合HP「ちゃむ」の運営管理及び周知	静岡市子育て応援総合HP「ちゃむ」の運営管理	静岡市子育て応援総合HP「ちゃむ」の運営実施全ページアクセス数:月平均36,353件 周知用のリーフレット作成	2,409	A	継続	常に最新の情報を提供できるように、適宜更新を行う。	
197	6	③		子ども未来課	「子育てコーチング講座」の開催	「地域づくり」を推進するため、NPO法人、子育てサークル等と連携し、子育てに不安や悩みを持つ保護者を対象に講座を開催し、子育てコーチングを活用して他人とのふれあいによる自分発見を通じた「親育て」を推進する。								2会場にて開催(1会場2日間)	2会場にて開催(1会場2日間)	2会場にて開催(1会場2回)子育て講座名変更して実施	200	A	継続	父親向けの子育て支援等、内容を変更し実施していく。	
198	6	③		青少年育成課	青少年対象事業に関する情報提供	青少年を対象とする事業等に関する情報をホームページ等で提供する。	●	●	●	●	●	●	●	実施(成人の日行事など)	実施(成人の日行事など)	実施 ・成人の日行事など ・青少年活動団体の会員募集 ・団体が実施するイベント紹介と参加者募集	-	A	継続	HP等による積極的な情報発信をあらゆるイベントや団体において実施できた。今後はさらに、イベントの対象とする世代やその親などへ確実に情報提供が行えるよう、媒体や方法を検討し、発信していく。	
199	6	③		子ども家庭課	母子家庭等日常生活支援事業費	母子家庭等に家庭生活支援員を派遣することにより、福祉の増進を図る。	●	●	●	●	●	●	●	子育て支援937時間 生活援助420時間	子育て支援900時間 生活援助590時間	子育て支援963時間 生活支援474時間	2,030	A	継続	各区子育て支援課との連携制度の周知	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本
策
- ①個々の課題に応じた相談体制の充実
 - ②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む
 - ③家庭教育の支援を充実する
 - ④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する
- (対象)
- 小低: 小学校低学年
 - 中: 中学生
 - 大: 大学・短大・専門学校生
 - 小高: 小学校高学年
 - 高: 高校生
 - その他(～40歳未満)

番号	施策の柱	基本 策	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合 計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額 (千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳 幼 児	小 低	小 高	中	高	大	保 護 者								
200	6	③		生涯学習推進課	家庭教育学級	未就学児や小中学生をもつ保護者に対して、家庭教育に必要な現代的課題等を学び、仲間をつくることにより、子どもたちの健やかな成長を促し、豊かな人間性を育むことを目的とした連続講座を実施する。								子ども園、小学校、生涯学習施設等において、40学級を開設。	小学校、生涯学習施設等において事業を実施	幼稚園、小学校、生涯学習施設において41学級を実施	直営事業分696及び指定管理料の一部	A	継続	未就学児や小中学生をもつ保護者に対して、組織的で継続的な学習機会を提供することができた。今後も新型コロナウイルス感染症防止策を徹底したうえで、講座を企画していく	
201	6	③		生活安心安全課	親子消費者教室	市内小学生とその保護者を対象に、身近な消費生活や食品に関する問題等様々なテーマに基づく実験や講義を実施し、消費生活に関する知識の普及を図る。			●					1回実施 親子9組19人	年1回実施、親子20組40人対象	1回実施 親子9組18名	23	A	継続	親子で参加しやすい開催日・開催時間を引き続き設定していく必要がある。	
202	6	③		選挙管理委員会事務局	高校生向け啓発事業	高校生向けの啓発冊子を発行、配付し若者の選挙に対する意識の向上をはかる。							●	高校生向け選挙啓発冊子「選挙トリセツ(取扱説明書)」を市内高校に14,000部程度配布。	高校生向け選挙啓発冊子「選挙トリセツ(取扱説明書)」を市内高校に16,000部程度配布予定。	高校生向け選挙啓発冊子「選挙トリセツ(取扱説明書)」を市内高校に13,000部程度配布。	292	A	継続	高校生の興味を引く紙面づくり。また、読み易く、投票行動につながる内容づくり。	
203	6	④		子ども未来課	子育てサポーターの育成	NPO法人との協働により、「子育てサポーター養成講座」を開催し、地域で活動する子育てボランティアの養成を行うとともに、講座修了者に対して、研修会等を実施します。							●	「子育てサポーター養成講座」全10回の開催	「子育てサポーター養成講座」全10回の開催	「子育てサポーター養成講座」全10回の開催	548	A	継続	講座内容を充実させ、受講しやすいよう全6回開催として実施していく。	
204	6	④		産業振興課	地場産業後継者育成事業(クラフトマンサポート事業)	地場産業界での新規就業者促進や後継者育成等を図るため、下記4事業を実施する。 1 地場産業現場実習短期支援事業(技術指導者のもとで3ヶ月間の短期現場実習) 2 地域産業現場実習長期支援事業(技術指導者のもとで2年間の長期現場実習) 3 地域産業独立支援補助金交付事業(独立や工房等の開業に伴う建物の賃借料に対して補助を行う。) 4 伝統工芸技術者雇用奨励金交付事業(市内在住の長期支援修了者を雇用した事業主に対して、雇用奨励金を交付する)							●	①現場実習短期支援 2人(420千円) ②現場実習長期支援 5人(4,800千円) ③独立支援 1人(480千円) ④雇用奨励 2人(1,920千円)	①現場実習短期支援 1人(300千円) ②現場実習長期支援 6人(4,500千円) ③独立支援 1人(1,200千円) ④雇用奨励 3人(3,840千円)	①現場実習短期支援 5人(1,265千円) ②現場実習長期支援 6人(3,500千円) ③独立支援 0人 ④雇用奨励 2人(1,920千円)	6,685	A	継続	実習者と指導者とのマッチングが課題となっているため、伝統工芸の後継者が着実に増えていくよう、実習者・指導者とコミュニケーションを密に図り、対象者の慎重な選定や新たな指導者の確保に重きを置いて実施していく。	

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本 ①個々の課題に応じた相談体制の充実 (対象)
 策 ②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む 小低:小学校低学年 小高:小学校高学年
 策 ③家庭教育の支援を充実する 中:中学生 高:高校生
 策 ④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する 大:大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額(千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組	
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他								保護者
205	6	④		産業振興課	地場産品体験学習事業	市内の小学校に通学する4年生について、小学校の授業の一環として、地場産品創作体験施設を利用して体験学習を実施した場合、その事業に要する経費を一部補助する。			●						参加児童数 3,199人	参加児童数 3,220人	参加児童数 3,267人	5,602	A	継続	・各学校への周知を行い、駿府匠宿との連絡を密にすることで目標値を上回る児童に体験してもらうことができた。 ・令和2年度から対象学年を全学年とするため、学校や関係機関との連絡を密にし、申込時に混乱がないよう調整する。また、未実施校に対しても引き続き明確で効率的な周知を行う。
206	6	④		産業振興課	駿府匠宿の運営	静岡市工芸と歴史の体験施設「駿府匠宿」において、静岡市の伝統工芸や近代産業の体験とPRをし、本市の地場産業及び伝統工芸の理解を深めてもらい、認知度を高める。		●	●	●	●	●	●	●	来場者数 200,150人	来場者数 270,000人	来場者 169,700人	225,992	B	継続	・コロナ感染症の影響等により、目標とする来場者数は達成できなかったが、蔓延防止策を検討・実施し引き続き伝統工芸の体験、PRを実施していく ・駿府匠宿と連携した施設PRを行い、施設の知名度向上及び来場者の増加を図る ・来場者の安心安全を確保するため、老朽化解消に向けた修繕を行い施設の魅力向上に努める
207	6	④		青少年育成課	しずおかエンジェルプロジェクト推進事業	①結婚を希望する男女の出会いの機会創出 ②若年層に対する結婚についての意識啓発及び情報提供 ③地域ぐるみで結婚を応援する気運の醸成								●	①出会いイベント10回実施【参加者数:225人】 ②ライフデザインセミナー実施 ③フォトウェディング冊子の配布、撮影パネルの設置	①結婚を希望する男女の出会いの機会創出12回実施 ②婚活サポーターの養成活用 ③フォトウェディング冊子の配布、撮影パネルの設置	①結婚を希望する男女の出会いの機会創出実施:12回【参加者数254人】 ②婚活サポーターの養成活用 登録7人、被サポートカップル16組 ③フォトウェディング冊子の配布、撮影パネルの設置	2,295	A	継続	事業開始H26年度からR2年度までで436組のカップルが成立し、そのうちR2年度末時点で成婚したカップルは18組である。このことから、イベント後における交際の継続が課題となっており、婚活サポーター活用によるきめ細やかな結婚支援に努める。

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本 ①個々の課題に応じた相談体制の充実 (対象)
 策 ②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む 小低:小学校低学年 小高:小学校高学年
 策 ③家庭教育の支援を充実する 中:中学生 高:高校生
 策 ④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する 大:大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者								H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額(千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組				
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他	保護者								総合計画			
220	6	④		青少年育成課	結婚新生活支援補助金事業	新婚世帯に対し、住居費や引越費用を補助することで、婚姻に伴う新生活に対する経済的負担を軽減し、未婚化及び晩婚化の抑制を図る。								●	有	補助金交付65件	新婚世帯で新居に係る居住費等を要した者に対する補助金の交付 補助金交付40件	補助金交付40件	8,361	A	継続	引き続き、利用者への周知・広報を行うとともに、補助金の趣旨等をより効果的に情報発信するよう努める。			
208	6	④		産業政策課	大学等起業家育成事業	市内の高校、大学及び専門学校の学生を対象に、中小企業診断士等の専門家を活用し、「起業・創業の仕方(ビジネスプランの作成方法等)」など、起業・創業に関する実践的な支援を実施します。										実施校10校 ・市内の高校5校(7学科) ・市内の大学等4校 ・市内の専門学校1校(2学科)	・市内の高校 5校 ・市内の大学 2校 ・市内の専門学校 1校	70,400の一部	A	継続	コロナ禍において一部大学が休校になっており、開催ができない可能性がある。また創業学習等中学校や高校でニーズが高まっている。				
210	6	④		商業労政課	大学等・企業担当者情報交流会	新卒者の地元企業への円滑な就職に結びつけるため地元企業人事担当者と県内外の大学等の就職指導者の交流会を開催する。										有	開催 1回 参加事業所 67社(市内) 参加大学等 96校	開催 1回 参加事業所 65社(市内) 参加大学等 100校	開催 1回 参加事業所 68社(市内) 参加大学等 91校	625	A	継続	大学等の参加数が企業に比べ少ないことから、早期に案内を開始し、より多くの大学の参加を目指す。		
211	6	④		商業労政課	高等学校と企業との情報交流会	市内事業所への就職促進を図るため市内の高校の就職指導担当教諭と地元企業の人事担当者との情報交換を行う。										有	開催 1回 参加高校等 41校 参加事業所 193社 (情報交換会)	開催 1回 参加高校等 40校 参加事業所 75社 (情報交換会)	開催 1回 参加高校等 40校 参加事業所 234社 (情報交換会)	-	A	継続	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となったが、高校に対し情報が行き届くようハローワークと連携を深める。		
213	6	④		商業労政課	高校生企業ガイダンス	企業ガイダンスを(多業種の市内企業が高校生に業務内容を説明)することで、高校生の就業意識の醸成を図る。										有	開催 1回 参加高校生 687人 参加事業所 48社	開催 1回 参加高校生 500人 参加事業所 40社	開催 1回 参加高校生 726人 参加事業所 48社	-	A	継続	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となったが、次年度に向け、コロナ禍での実施方法や運営方法を検討していく。		
214	6	②		予防課	夏休み子ども消防教室	将来を担う子ども達に消防の仕事を理解してもらうとともに、火災予防意識を喚起し安全なまちづくりについて考えてもらえるよう機会を提供する。													8月3日と6日の2日間、計10会場で実施。 参加者450人 (静岡市内実績:7会場、参加者347人)	年に2日間、管内9消防署、1分署にて実施予定。	2日間、9消防署で実施するとともに上下水道フェアにて1回実施。 参加者422人 (静岡市内:7会場、参加者300人)	35	A	継続	各消防署等において、それぞれの消防体験を実施し、消防の仕事や火災予防教育への推進に寄与した。
215	6 2	④ ①		子ども未来課	児童館運営事業	児童に健全な遊びを与えて健康を増進し、情操豊かにすることを目的とした地域児童の健全育成のための拠点施設である児童館において、18歳未満の児童を対象とし、さまざまな行事・教室を開催する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●		市内12館の指定管理による運営実施	市内12館の指定管理による運営実施	市内12館の指定管理による運営実施	226,816	A	継続	指定管理者等との連携強化による効果的な事業運営の推進に取り組む。		

子ども・若者育成プラン関連事業
令和元年度事業実績

施策の柱6「子ども・若者の生活の場におけるネットワークづくりの推進」

- 基本 ①個々の課題に応じた相談体制の充実 (対象)
 策 ②家庭・学校・地域・民間(事業者)が協力して子ども・若者の育成を目指す活動に取り組む 小低:小学校低学年 小高:小学校高学年
 策 ③家庭教育の支援を充実する 中:中学生 高:高校生
 策 ④地域を支える人材を活用し、地域の力を強化する 大:大学・短大・専門学校生 その他(~40歳未満)

番号	施策の柱	基本	再掲	課名	事業名	事業概要	対象者							総合計画	H30実績	R元 事業実施計画	R元 実績	R元決算額(千円)	評価	R2 継続	これまでの評価・課題と今後に向けた取組
							乳幼児	小低	小高	中	高	大	その他								
161	6	②		予防課	少年消防クラブの育成	少年消防クラブの健全な育成発展に努め、火災予防思想の普及と高揚を図ることを目的とし、春・秋の火災予防運動への協力活動及び各種火災予防思想イベントへ参加している。	●	●	●	●				●	・夜回りの実施 ・防火ポスターの作成 ・救命講習の実施 ・花火教室の実施 クラブ数 3クラブ	静岡市防火ポスター制作、火災予防運動時の夜回り、救急・救命講習を実施予定。	・夜回りの実施 ・防火ポスターの作成 ・救命講習の実施 ・花火教室の実施 クラブ数3クラブ	25	A	継続	幼年消防クラブの活動を通じ火災予防思想の普及と高揚を図ることができた。今後も継続的に活発なクラブ活動を実施する。
162	6	②		予防課	花火教室	花火をする機会が多い時期をとらえ、子供の花火による事故防止を目的とし「花火教室」を火災予防教育の一環として開催している。	●	●	●					●	管内全域の保育園、幼稚園、こども園及び小学校を対象に依頼があったところに花火教室を実施。162カ所、11,750人参加。(静岡市内実績:109カ所、参加者7,709人)	管内の幼稚園、保育園、こども園及び小学生以下の各団体に実施予定。	管内全域の保育園、幼稚園、こども園及び小学校を対象に依頼があったところに花火教室を実施。管内 実施回数158回 参加者9952人(静岡市実施回数106回、参加者6,036人)	202	A	継続	花火教室を通じ子供たちの火災予防教育への推進に寄与するとともに、花部教室実施中の事故防止に努め、安全に実施することができた。雨天時の対応について今後検討する。
227	6	②		河川課	牛妻地区かわまちづくり事業	地区連合会、単位町内会、その他団体が協同し、川遊び空間の運営を行い、子どもが学び・体験する場を創出する。	●	●	●	●			●	無		水辺の楽校開催 7・8月、26日間開催	水辺の楽校開催 7/27~8/25 (26日間開催)	530	A	継続	課題:運営主体の高齢化について
228	6	④		商業労政課	高校生向けキャリア形成支援事業	市内の高校生を対象に、地域社会で働く社会人との交流等を通じて、主体性やコミュニケーション能力を養うとともに、地元企業の理解を促し、今後の進路決定(キャリア・ビジョン)に向けた一助とする。							●	有	延べ参加校 12校 将来の選択肢が広がったと回答した生徒の割合 94.25%	延べ参加校 10校 将来の選択肢が広がったと回答した生徒の割合 90%以上	延べ参加校 12校 将来の選択肢が広がったと回答した生徒の割合 93.9%	14,162 (若者の地元就職・UIJターン就職促進事業の一部)	A	継続	各校の希望に沿ったプログラムを提供するとともに、より効果的な内容や実施方法を検討していく。